

令和6年度 中学校教科用図書調査研究報告書

国語	-----	1 頁
書写	-----	2 頁
社会（地理）	-----	3 頁
社会（歴史）	-----	4 頁～6 頁
社会（公民）	-----	7 頁～8 頁
社会（地図）	-----	9 頁
数学	-----	10 頁～13 頁
理科	-----	14 頁～15 頁
音楽	-----	16 頁
美術	-----	17 頁
保健体育	-----	18 頁
技術	-----	19 頁
家庭	-----	20 頁
外国語（英語）	-----	21 頁～22 頁
道徳	-----	23 頁～24 頁

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	国 語	種類	4種
--------	-----	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	三省堂(15・三省堂)	教育出版(17・教出)	光村図書(38・光村)
		国語 002-72・82・92	国語 015-72・82・92	国語 017-72・82・92	国語 038-72・82・92
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○色が多く使われており、明るくわかりやすい。教材の配置も偏ることなく、一般的な学習ができるようになっている。 ○「話す・聞く・書く」の表現分野の教材が多く取り上げられている。 ○色づかい、挿絵等に暖かさが感じられる。 ○ページ数を少なくする工夫がなされている。	○色が多く使われており、明るくわかりやすい。教材の配置も偏ることなく、一般的な学習ができるようになっている。 ○各単元に読み取り教材が複数配置されており、段階的に学習できるため、読解力を付けやすい内容になっている。 ○中学生が興味を持ちやすい教材や、イラストが多く取り上げられている。	○色が多く使われているが、全体的に落ち着いた色合いである。教材の配置も偏ることなく、一般的な学習ができるようになっている。各単元の最初に読み取り教材が1つあり、その後「話す・聞く・書く」の教材が配置されている。 ○行間が広めに設定されており、読みやすい。 ○文学教材の選び方に特徴がある。(他の教科書では、取り上げていない教材)	○多くの色が使われており、明るく見やすい教科書である。教材の配置も偏ることなく、一般的な学習ができるようになっている。 ○各単元の最初に読み取り教材があるが、複数配置されている単元もあり、段階的に学習できる。2・3年生の教科書では、1学期に古典教材を1つ学習するようになっている。 ○新聞記事が多く取り上げられている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○新出漢字や難解語句などが、教科書本文の下段に書かれており、確認しやすい。 ○各単元の最後には、漢字や語句、文法などについて学習できるページがあり、コンスタントに学習できる。 ○母国語が日本語でない生徒への配慮から、多くの漢字にふりがなが打ってある。	○難解語句等が、教科書本文の下段に書かれており、確認しやすい。対義語・類義語の掲載がある。新出漢字は、教材の最後にまとめて書かれている。 ○各単元の最後には、漢字や語句について学習できるページがあり、コンスタントに学習できる。やや文法のページは少ないが、巻末にまとめて書かれている。 ○漢文に関する説明が丁寧である。	○新出漢字、難解語句等が、教科書本文の下段に書かれており、確認しやすい。新出漢字は、教材の最後にもまとめてある。 ○各単元の最後には、漢字や語句、文法について学習できるページがあり、コンスタントに学習できる。 ○取り上げられている文章が、比較的短く、読みやすい。	○新出漢字、難解語句等が、教科書の本文下段に書かれており、確認しやすい。 ○各単元の最後には、漢字や語句、文法について学習できるページがあり、コンスタントに学習できる。 ○各学年に、語彙を増やすために使える「語彙ブック」が付いている。 ○各学年の最後に、1年間で身に付けた力を活用して問題に取り組む「国語の力試し」を設けている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○文章を読み取った上で、他の文章と読み比べたり、図表と関連付けたり、条件に従って作文したりなど、「話す・聞く・書く・読む」が関連付けて学習できるようにしてある。 ○1つの単元の中に、「話す・聞く・書く・読む」の中から、複数の教材を配置し、学習する中で、思考力・判断力・表現力等を育成できる。 ○教材のテーマが多様であり、関心が広げられる。	○1つの単元の中に、読み取りをした上で、話し合いをしたり、作文を書いたり、スピーチをしたりなど、「話す・聞く・書く・読む」が関連付けて学習できる工夫がある。 ○各学年の初めに、基本となる「読み方」に焦点化した「ブレ教材」が取り上げられている。	○1つの単元の中に、読み取りをした上で、話し合いをしたり、作文を書いたり、スピーチをしたりなど、「話す・聞く・書く・読む」を体系的に学べる工夫がしてある。 ○説明文では、現代的で多様な話題を取り上げ、内容を捉え、分析し、考える力を養う教材が取り上げられている。	○1つの単元の中に、読解の教材は必ずあり、その学習の上に作文、発表、話し合いなどの表現の学習を行えるような工夫がしてある。 ○「捉え」「深め」「考えを持つ」という流れで、「伝える」というスキルへのステップアップが図れる工夫がある。 ○思考の視覚化や、「意見と根拠」「具体と抽象」などの情報の整理や論理的思考の基礎基本が学べる工夫がしてある。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○各単元のメインとなる読み取り教材の後には、「てびき」のページがあり、生徒自身で学習できるヒントが書かれている。 ○表現教材には、取り組み方の順序が書かれており、生徒自身で主体的に学習できる。 ○生徒の「学びたい」「知りたい」等に対応した内容になっている。	○読み取り教材の後には、「学びの道しるべ」のページがあり、生徒自身が読み取るヒントが書かれている。 ○読み取り教材の後には、「読み方を学ぼう」のページがあり、文学教材や説明文教材の読み取り方を、段階的に学ぶことができる。 ○学習の流れが示してあり、自分で学んでみたいと思わせる工夫がある。	○読み取り教材の前には「学びナビ」のページがあり、これから読む教材の特徴や読み取り方のヒントなどが書かれており、予習しやすい。 ○読み取り教材の後には、「みちしるべ」のページがあり、生徒自身が読解をするヒントが書かれている。 ○各単元に、「広がる本の世界」というページがあり、教材をさらに深く学ぶ読書をすることができる。	○読み取り教材の後には、「学びへの扉」というページがあり、学習の順番について説明してあるので、生徒自身の力で読み取ることができる。 ○読書活動に特化した単元があり、読書・読解に力を入れることができる。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○教科書の後半には、資料編のページがあり、教科書以外の文学作品や説明文、古典教材などが載っている。また、中学生へのおすすめ本や原稿用紙の使い方、要約の仕方など、生徒の学習に参考となる記載も多い。 ○高校で学ぶ古典文法の記述がある。	○教科書後半の資料編が多く、教科書以外の作品や読書案内、古典芸能など、詳しく紹介されている。話し合いの仕方や読書感想文の書き方など、生徒の学習の参考となる記載も多い。	○資料編のページで、教科書以外の教材や生徒の学習の参考になる内容も書かれている。 ○3年生の教科書に、高校で習う「古典文法活用表」の記載がある。	○資料編のページで、教科書以外の教材や、生徒の学習の参考になる内容が書かれている。 ○ICT機器の活用や可視化の方法、話型などが紹介されている。 ○3年生の教科書では、文語文法などの高校で学ぶ内容が書かれている。
	(5) 他の教科等との関連	○説明文では、社会の歴史や公民、理科の生物や地学、家庭科に関わるような内容がある。 ○国際社会や環境など、現在課題となっている教材が取り上げられている。 ○古典教材では、社会の歴史で習う教材が選ばれている。	○説明文では、理科の生物や地学、家庭科、環境問題等に関わるような内容がある。 ○金融、消費者問題、防災、SDGs等に関わる教材も取り上げられている。 ○古典教材では、社会の歴史で習う教材が選ばれている。 ○総合で使える「壁新聞の作り方」のページがある。	○説明文では、理科の生物、社会の地理や歴史、公民、SDGsなどの今日的課題に関わる教材が取り上げられている。 ○言語教材では、特に英語との関わりを取り上げている。 ○古典教材では、社会の歴史で習う教材が選ばれている。	○説明文では、理科の生物、社会の地理や歴史、美術に関わる教材が選ばれている。 ○SDGsに関わる教材が取り上げられている。 ○古典教材では、社会の歴史で習う教材が選ばれている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○デジタルコンテンツ(約400)も多く、生徒がタブレット等を使って多くの資料を確認できるように工夫してある。QRコードに内容の説明がある。 ○多くの色が使われており、文法の文の成分などを色分けしてあるので、わかりやすい。色だけでなく、マークも付けてあり、ユニバーサルデザインにも配慮している。 ○行がわかるように「・」が打ってある。 ○1年の教科書は、字が大きく、読みやすい。	○デジタルコンテンツ(約500)も多く、生徒が資料を確認したり、動画を見たり、漢字練習などに取り組める工夫がある。QRコードに内容の説明がある。 ○色以外で区別できる配慮(濃淡・罫線・形・番号など)の補助的な手がかりが書かれている。 ○教材、内容によって、字体を変えている。	○デジタルコンテンツ(約150)も多く、生徒が資料を確認したり、筆者が話している動画を見たりすることができる。 ○特別支援教育の対応としてマークやデザイン使用の統一化がなされている。 ○行がわかるように「・」が打ってある。 ○写真・挿絵が多い。	○デジタルコンテンツ(約350)も多く、資料を確認したり、作者のインタビュー動画を見たりすることができる。QRコードに内容の説明がある。 ○行が分かるように「・」が打ってある。 ○色以外で区別できる配慮がなされている。 ○イラストが明るく、親しみやすい。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	書 写	種類	4種
--------	-----	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	三省堂(15・三省堂)	教育出版(17・教出)	光村図書(38・光村)
		書写 002-72	書写 015-72	書写 017-72	書写 038-72
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○3学年分の教科書が、1冊になっている。(155 ページ) ○1年で楷書と行書とかな、2年で行書と仮名の調和、3年で身の回りの文字についての学習となっている。 ○見開きで学習の見通しが持てる構成になっている。 ○どの学年も、毛筆だけでなく、硬筆の学習もできる。 ○学年の部分の最後に、書き初めの手本が載っている。 ○学年ごとに「書写テスト」がある。	○3学年分の教科書が、1冊になっている。(120 ページ) ○1年で楷書と行書とかな、2年で行書と仮名の調和、3年で身の回りの文字についての学習となっている。 ○見開きで学習の見通しが持てる構成になっている。 ○どの学年も、毛筆だけでなく、硬筆の学習もできる。 ○巻末に、3学年分の書き初めの手本が載っている。 ○2年の最後に「学力テスト問題」がある。	○正方形の教科書である。 ○3学年分の教科書が、1冊になっている。(144 ページ) ○1年で楷書と行書とかな、2年で行書と仮名の調和、3年で身の回りの文字についての学習となっている。 ○見開きで学習の見通しが持てる構成となっている。 ○どの学年も、毛筆だけでなく、硬筆の学習もできる。 ○学年の部分の最後に、書き初めの手本が載っている。 ○書式の教室に「書写テスト」がある。	○3学年分の教科書が、1冊になっている。(165 ページ) ○1年で楷書と行書とかな、2年で行書と仮名の調和、3年で身の回りの文字についての学習となっている。 ○見開きで学習の見通しが持てる構成になっている。 ○どの学年も、毛筆だけでなく、硬筆の学習もできる。 ○巻末に、3学年分の書き初めの手本が載っている。 ○書写ブックという硬筆用の練習ノートが付いている。 ○書写ブックに「書写テスト」がある。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○「書写のカギ」という大事なポイントをまとめた部分があり、書写の学習が行いやすい。	○「書き方を学ぼう」の部分で、学ぶ内容がコンパクトにまとめられており、書写の学習が行いやすい。	○「目標・考えよう・生かそう・振り返ろう」の部分で、学習の内容・順番が書かれており、学習が行いやすい。	○「①考えよう②確かめよう③生かそう」の部分で、学習の進め方がわかる。 ○書き初めの手本だけでなく、「書き初めマスターブック」というページがあり、書き初めの学習の仕方が解説してある。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○どの学年にも、書写をするだけでなく、文字の歴史や身の回りでの使われ方、筆記具の使い分けなど、生徒がしっかり考えたり、表現したりできる内容が載っている。	○どの学年にも、書写をするだけでなく、文字の歴史や身の回りでの使われ方、筆記具の使い分けなど、生徒がしっかり考えたり、表現したりできる内容が載っている。	○どの学年にも、書写をするだけでなく、「コラム」のページで、文字の歴史や身の回りでの使われ方、筆記具の使い分けなど、生徒がしっかり考えたり、表現したりできる内容が載っている。	○どの学年にも、書写をするだけでなく、「コラム」のページで、文字の歴史や身の回りでの使われ方、筆記具の使い分けなど、生徒がしっかり考えたり、表現したりできる内容が載っている。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○「課題を見つける→確かめる→生かす」の流れで学習できる。 ○書写の手本の左下に、QRコードが載っており、運筆について動画で学ぶことができ、自分で学習を進めることができる。	○書写の手本の左上にQRコードがあり、解説動画を見て、自身で学習を進めることができる。	○「考えよう→生かそう→振り返ろう」の流れで学習できる。 ○各課題の下に、QRコードがあり、学習の進め方を動画で確認できる。	○「考えよう→確かめよう→生かそう」の流れで学習できる。 ○書写の手本の下に、QRコードが載っており、運筆について動画で学ぶことができ、自分で学習を進めることができる。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○巻末の「書写活用ブック」の部分には、様々な書式の例や常用漢字表、人名漢字表等が載っており、発展的な学習に生かすことができる。	○巻末の資料編の部分には、様々な書式の例や漢字の一覧表などが載っている。	○巻末には、様々な書式や、楷書・行書の漢字一覧表が載っている。 ○石碑や書作品などの例が取り上げられている。 ○左利き生徒のための配慮・動画がある。	○巻末には、様々な書式や、楷書・行書の漢字一覧表が載っている。 ○石碑や作家の筆跡などの例が取り上げられている。
	(5) 他の教科等との関連	○社会の歴史の内容に関わる内容がある。 ○総合的な学習の時間などで活用できる内容が多くある。 ○横書きノートの例を示している。	○社会の歴史の内容に関わる内容がある。 ○総合的な学習の時間などで活用できる内容が多くある。 ○横書きレポートの例を示している。	○社会の歴史の内容に関わる内容がある。 ○総合的な学習の時間などで活用できる内容が多くある。 ○横書きノートの例を示している。	○社会の歴史の内容に関わる内容がある。 ○総合的な学習の時間などで活用できる内容が多くある。 ○他教科と関連のある教材には、教材名の前にマークが示されている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○書写の見本は二色の墨で書かれており、穂先や根元がどこを通っているか、確認することができる。 ○ユニバーサルデザインに配慮している。	○書写の見本は二色の墨で書かれており、穂先や根元がどこを通っているか、確認することができる。 ○ユニバーサルデザインに配慮している。	○書写の見本は二色の墨で書かれており、穂先や根元がどこを通っているか、確認することができる。 ○ユニバーサルデザインに配慮している。	○書写の見本は二色の墨で書かれており、穂先や根元がどこを通っているか、確認することができる。 ○ユニバーサルデザインに配慮している。 ○多色で、イラストも多い。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	社会(地理的)分野	種類	4種
--------	-----------	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	教育出版(17・教出)	帝国書院(46・帝国)	日本文教出版(116・日文)
		地理 002-72	地理 017-72	地理 046-72	地理 116-72
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○「問い」を中心に単元の課題的な学習を実現できる構成になっている。 ○資質・能力の基礎を育み、現代的な諸課題を自分ごととして捉え、解決に向かう学びができる。 ○学習のまとめのページを大幅に見直し、問いを軸にした課題解決的な学習で地域の特色を捉えられるようになっている。そして評価の観点を明示している。	○社会を読み解き、学び合える教科書として、日常生活や経験と関連深い身近な話題・内容が多く取り上げられている。 ○単元ごとに「問い」を軸にして課題解決的に追究していくことが可能な構成になっている。 ○社会参画をはかるために、身近な地域から社会を考えることができる教材や内容が使われている。	○問いを軸にした単元構造の構造化によって、「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現する工夫されている。 ○社会への興味・関心を広げて、学習内容の理解につなげる工夫がされている。 ○地図帳を活用した学びをすることで、より理解が深められるようになっている。	○指導と評価の計画に基づいた教科書となっており、単元を貫く問いをつかみやすくなっている。 ○新しい時代を担う主権者を育てることを意識し、持続可能な社会について考えることができる多様な教材が多く配置されている。 ○導入として、資料に関する問いかけを設けている。またまとめとして、学習内容についての理解を確認し、表現するための問いを設けている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○地理学習で習得すべき知識や概念を学べるようになっており、必要事項については「もっと解説」で補足説明されている。 ○写真・雨温図・統計地図・グラフなどの資料を身につけられるように工夫されている。 ○1時間の学習の流れを「見える化」しており、導入資料、学習課題、本文、チェック&トライと学べる構造となっている。	○本時見開きのページの最後に、学習したことを整理しながらまとめる活動として「確認」のコーナーが設けられている。 ○「地理の技」のコーナーでは、身につけておきたい適切な「地理的技能」が習得できるように工夫されている。また、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」をわかりやすく示しており、基礎・基本が身につく紙面構成となっている。 ○「ワードチェック」で節の学習を言葉で振り返ることができる。	○「章の問い」「節の問い」「学習課題」と単元を貫く問いを通して、学びやすくなっている。 ○地域の特色を着実に理解できるように工夫されている。「写真で眺める」→「自然環境」→「歴史・文化」→「産業など」→「学習をふり返ろう」という展開になっている。 ○本文側注およびQRコンテンツの中に用語解説が用意されている。	○1授業時間を見開き2ページとし、この見開きで「何を学ぶのか」を「学習課題」で明確に示し、「学習課題」と対応した「確認・表現」コーナーで、本文ページの学習を確かめるための問いを設けている。 ○読み取りがしやすい、知識の理解と定着を図るしくみ図が掲載されている。 ○まとめのページで知識の確認ができるようにキーワードがまとめられている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○巻頭に「地理を学ぶ5つのミカタ」を設けて、全編を通して「地理的な見方・考え方」ができるようになっている。 ○1単位時間の学習内容をまとめる「チェック&トライ」を設けている。 ○多様な思考ツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」を設けている。	○「問い」を軸にして課題解決的に追究していく構造で、学びを助ける三本柱として「LOOK」「THINK」「TRY」があり、思考力を深められるようになっている。 ○「確認」と「表現」のコーナーで話し合いなどの表現活動ができるようになっている。	○各ページの「説明しよう」では、学習課題をふり返り、思考力、判断力、表現力の育成につなげることができる。言語活動を毎時間繰り返し行えるようになっている。 ○各章・節末では、章・節の学習で得た知識を生かして、「地理的な見方・考え方」を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題を設けている。 ○思考ツールを用いて、自分の考えを整理構造化できるように配慮されている。	○トライ・スキルUP・資料活用コーナーを設け、毎時間、思考力、判断力、表現力などの向上を図る場面を設定し、自分の言葉で表現できるように構成されている。 ○まとめ・ふり返りページでは、思考ツールを使った活動を提案するとともに、諸課題について考察・構想したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にしたりして議論できるようになっている。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○「世界の諸地域」と「日本の諸地域」の導入ページでは、見開きに大きな資料を提示し、主体的に課題に取り組めるようになっている。 ○生徒の興味・関心を誘うサブタイトルが全ページに設けられている。 ○小集団で参加型学習を行う「みんなでチャレンジ」を設け、対話的な活動を実践できるようになっている。	○授業の導入の場面では、生徒の興味・関心が高められるような、写真・図版などの資料をわかりやすく提示している。 ○章・節といった「内容のまとめ」ごとに、これから学習する章や節全体の内容を大観して興味・関心が高められるようにしているとともに、最後に学習を振り返って意見を交換する学習を行うことで、深い学びを実現できるように配慮されている。	○単元を貫く「章・節の問い」、各見開き「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、単元の最後の「学習を振り返ろう」と問いを構造化している。 ○イラスト地図や写真資料で地域を概観し、興味・関心を高める「とびら」「写真で眺める」も設定されている。 ○「アクティブ地理」では、正解が一つではない課題解決型学習を通して、意見交換や発表をする対話的な学習を多く設定している。	○各単元末に設定しているまとめ・ふり返り活動を通して単元を貫く問いに答える活動を設定し、主体的に学習に取り組む態度の見取りを支援している。 ○「資料活用」や「議論してみよう」などの学習活動のうち、生徒どうし話し合いなど対話的な活動が効果的に取り入れられるものについては「学び合い」マークを付している。 ○現代的な諸課題を扱った豊富な教材が掲載されており、生徒が興味・関心が持てるようになっている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○地理・歴史・公民の分野の枠を貫く「5つのテーマ」を大切にしている。 ○多彩な二次元コードで学びをサポートしている。	○「まなびリンク」として、紙面に印刷された二次元コードから、動画やクイズなどの各種コンテンツへアクセスすることができる。 ○単元構想は、前期・後期の2学期にも配分しやすく配列されている。	○数多くの二次元コードを用意し、個別最適な学びを支援している。	○教科書紙面に二次元コードを掲載し、発行者 web サイト上で公開している動画や資料、ワークシート等のコンテンツに生徒がアクセスできるようにしている。
	(5) 他の教科等との関連	○各単元の導入部に、小学校社会で学習した内容を用語や写真で振り返るページを設けており、学習内容を円滑に接続できるようにしている。 ○他教科の学習との関連箇所にはマークを付し、教科を横断した学習を可能としている。 ○3分野との関連マークを示すことで、多面的・多角的な学習ができる。	○カリキュラムマネジメントへの配慮がされており、小中学校、他分野、他教科との接続・連携が意識されている。 ○コラム「地理の窓」を設け、興味や関心が広げられるようになっている。 ○道徳教育と関連して学習できるようになっている。	○小学校で学習した内容を確認できるように、関連用語が提示されている。 ○3分野での連携や小学校との連携を図っている。 ○地図帳とセットで使用することで、より理解を深めようとしている。 ○「世界の諸地域」や「日本の諸地域」では、歴史的経緯が積極的に記載され、歴史的な分野との接続が考慮されている。	○生徒の発達段階を考慮した内容とし、小学校の学習の振り返りや、歴史・公民の学習との分野間連携に配慮している。 ○他教科と関連のある教材を多数掲載して、地域や生徒の実態に合ったカリキュラム編成ができるようになっている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○視覚的効果の高い幅広の判型(AB判)を用いている。 ○UDフォントを使用し、視認性を高めて、読み取りやすさを向上させている。また、ふりがなにはゴシック体を使用している。 ○立体感や陰影のある表現を省いた「フラットデザイン」を採用している。	○紙面でもデジタル画面でもUDフォントによる黒文字を基本としている。 ○文字や図版など資料の印刷は鮮明で、色彩もビジュアル性が高い。写真の発色がきれい、わかりやすい。 ○キャラクターのイラストは、性差や障がいの有無などに関わらず、多様な生徒が互いに協力し合いながら学習に取り組む様子の描写となっている。	○UDフォントが使用され、誤読を防ぐように配慮されている。 ○色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色や模様を使用され、カラーユニバーサルデザインの配慮がされている。 ○写真の印刷は鮮明で見やすくなっている。	○UDフォントを使用し、ふりがなはゴシック体を使用している。 ○見開きページの情報量を集約させるために、AB判を採用し、写真などの図版など印刷は鮮明では大きく示している。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	社会・歴史	種類	9種
--------	-------	----	----

(3)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	教育出版(17・教出)	帝国書院(46・帝国)	山川出版(81・山川)
		歴史 002-72	歴史 017-72	歴史 046-72	歴史 081-72
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○「歴史をとらえる見方・考え方」や「みんなにチャレンジ」などで歴史的な見方・考え方を働かせながら、歴史の流れや時代の特色を理解し、多面的・多角的にとらえられる力を養えるようにしている。 ○「スキルアップ」「活動コーナー」「もっと知りたい」などで歴史学習に必要な知識・技能を身に付けられるようになっている。 ○各章の導入の活動に「小学校の社会で習ったことば」や小学校社会科の教科書に掲載されている資料、深い学びをつなげるための活動内容、キャラクター年表を掲載している。	○「歴史にアプローチ」などで、「歴史的な見方・考え方」を働かせた学びを、効果的に進められるようにしている。 ○「身近な歴史を調べよう」などで、「対話的な学び」を促す多様な活動例を紹介している。 ○第1章では、歴史の捉え方・調べ方を示し、歴史学習の視点を丁寧に標記している。 ○学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習事項を示す副題をおき、併せて「学習課題」を明示し、課題意識を持ちやすくしている。 ○年表スケールでどの時代の学習なのか、わかりやすくしている。(見開きタイトル上)	○学習の見通し・振り返りを通して、学習者には「主体的・対話的で深い学び」を、指導者には「指導と評価の一体化」を実現できるようにしている。 ○「タイムトラベル」「世界とのつながりを考えよう」など、人々の営みが大観できるイラスト資料や地図を使用し、歴史に対する興味・関心が高まるように工夫している。 ○章・節等の冒頭で学習する内容を問いで示し、生徒自らが学習の見通しがもてるように工夫をしている。併せて、問いと対になるように課題を設け、協働的に学習する場面を設定することで「指導と評価の一体化」を図っている。	○豊富な発問を通して、生徒の主体的・対話的な活動をうながし、学習意欲を高められるように工夫している。 ○世界の歴史に関する内容を充実させ、日本の歴史との関連や、現在の国際情勢との関連を意識した記述になっている。 ○各章の扉ページに日本と世界のできごとを上下に分けて示す帯年表や、地図と親しみやすいイラストでその時代の世界を紹介するページを設け、世界の歴史を含めた歴史全体の流れを視覚的につかむことができるような工夫をしている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○「導入資料」「学習課題」「本文」「チェック＆トライ」の流れで構造化し、学習内容を確実に定着できるようにしている。 ○「スキルアップ」を設け、基礎的な知識・技能を系統的に習得させるようにしている。 ○技能を活用する活動コーナーを設け、資料を活用するちからを高められるようにしている。 ○つまずきやすい事項は、巻末の「用語解説」で説明し、基礎・基本を確実に理解できるようにしている。	○「学習のはじめに」「確認／表現」「学習のまとめと表現」など、段階的な学習を通して学力の着実な向上が図られるように構成している。 ○「歴史の技」や資料に対する発問である「Q」、資料を読み解く視点を問いの形で示す「THINK！」を設け、自ら資料を活用する力を身に付けるような工夫をしている。 ○側注に「用語解説」を掲載し、読解に負担がかからないように配慮している。	○「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」の展開で構造化され、知識および技能が確実に習得できるようになっている。 ○本文の内容を補足し、理解を促進するための図解や写真を多く掲載している。 ○「技能をみがく」コーナーを設けて、資料や図表の見方といった基礎的・基本的なスキルに加え、調査の方法や多面的・多角的に分析する力を身に付ける工夫をしている。	○学習課題、本文、ステップアップによる振り返りという流れで統一され、知識・技能を身に付ける構造になっている。 ○第1章「歴史との対話」では、歴史を学ぶための基礎知識と、歴史の調べ方を示し、歴史学習に必要な技術が習得できるように工夫している。 ○「用語解説」や側注をつけ、理解を助ける工夫している。 ○世界史の記述を充実させている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○学習内容をまとめる「チェック＆トライ」を設け、思考力・判断力・表現力を高められるようにしている。 ○多様な思考ツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」を設け、思考を整理し、学びを深められるようにしている。 ○「問い」を軸にした課題解決的な構成になっている。節の問いを解決する「探求のステップ」や思考ツールを活用した「探求課題の解決」等で時代全体を大観し、思考・判断・表現を深める内容となっている。	○「歴史にアプローチ」では、歴史学習の進め方や歴史的な見方・考え方について確認できる構成になっている。 ○「確認・表現」や各章末に「学習のまとめと表現」を設け、表現活動を効果的に取り入れ、思考・判断・表現する力を身に付けられるように工夫している。 ○本文とは異なる視点から歴史を捉え直す「歴史の窓」や「公民としての資質・能力の育成」の観点からさまざまなテーマについて「地理」・「公民」での学びと合わせて多面的・多角的に考察できるような工夫がなされている。	○「タイムトラベル」は、異なる時代どうしを比較して考察できるようにしており、思考力を養えるように配慮している。 ○「説明しよう」には学習内容を活用して、自分なりに判断・表現する問いが設けられ、思考力・判断力・表現力を育成できるように配慮している。 ○「学習を振り返ろう」には、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題が設けられている。また、思考ツールを用いて考えを整理、構造化できるように配慮している。	○学習課題、ステップアップの課題、図版に付した発問などを各所に設け、考える力や歴史的な見方・考え方が身に付けられる工夫をしている。 ○社会・経済史や文化史も充実した記述になっており、多面的・多角的な考察ができるようになっている。 ○価値観の異なる立場の資料を取り上げ、さまざまな立場に考慮している。 ○社会的事象の差異を重視した記述と発問によって、歴史的な見方や考え方を身に付けることができる。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○生徒の興味・関心を引き出すために大きな「導入資料」を設け、主体的な学びを促している。 ○学習の流れの「見える化」や QR コンテンツとの組み合わせなどで、生徒の意欲を喚起できるように工夫している。 ○「みんなでチャレンジ」「スキルアップ」「もっと知りたい」等、対話的、活動的な学習の場面や学びのさらなる興味関心に答えるページがあり、主体的に学習に取り組む態度を育む内容となっている。	○章の冒頭ページの時の人々の暮らしがわかる資料の読み解きの活動や時代の変化に注目することで、「章の問い」や学習の見通しにつながっていくよう工夫している。 ○学習を振り返る「確認・表現」の中に「説明しよう」「話し合おう」などの課題を設けることで、生徒が教え合いや学び合いなどの協働的な学習に取り組みながら、新たな知識の習得や学習意欲を向上できるように工夫している。 ○歴史のつながりを意識できる「私たちにつながる歴史」や人々の暮らしの様子に焦点を当てた「学習のはじめに」など、歴史を身近に感じ、主権者として社会に参画する意識を高められるように工夫している。	○「タイムトラベル」(全12テーマ)を各時代のはじめに設け、イラストの読み解きや歴史的な見方や考え方を働かせる活動を通じて、当時の社会への興味・関心を高める工夫をしている。 ○特設「アクティブ歴史」では、正解のない課題解決型学習を通して、課題に粘り強く向き合う姿勢や合意形成を目指す態度が身に付けられるようにしている。 ○「対話アイコン」を設置し、対話的な学びを通して、考えを深められるように工夫している。	○AB判を利用して図版を大きく見やすくし、発問によってどこに注目すべきかを示唆することで、歴史への興味関心と呼ぶ工夫をしている。 ○「身近な地域を調べよう」では、中学生を想定し、調査の順序、注意事項を示し、主体的に取り組むことを促す工夫をしている。 ○「歴史を考えよう」や「地域からのアプローチ」など、課題や発問を置くことで、課題を追究できるよう工夫している。 ○「まとめ」「ステップアップ」「地域からのアプローチ」など様々な発問を通して、主体的・対話的な活動を促し、学習意欲を高める工夫をしている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。 ○導入・展開・まとめの学習段階に応じて、解説動画や資料、クイズ、思考ツールなどの二次元コードが準備されており、より深く学ぶことができる。	○学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。 ○「学びリンク」を設け、教科書と教文ウェブサイトをリンクさせ、様々な情報が得られるようにしている。	○学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。 ○二次元コードを活用して、学習内容の習得や調べ学習を支援するコンテンツを多数掲載し、個別最適な学びを支援している。	○学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。 ○二次元コードを付し、教科書掲載写真の拡大、動画などで、より多様な学びができるように配慮されている。
	(5) 他の教科等との関連	○小学校で学習した内容を用語や写真、QR コンテンツなどを用意し、小・中の学習を円滑に接続できるようにしている。また、「資料から発見！」などを設け、高等学校の資料を読解する力を養えるようにしている。 ○他分野や他教科との関連ページの教科書紙面が二次元コードからアクセスできるようになっている。	○公民の学習を見すえ、現代社会につながる歴史的な事象や課題の扱いを充実させている。 ○小学校での人物や文化財中心の学習からスムーズに接続できるように、各時代の導入の内容を親しみやすい内容に工夫している。 ○高等学校の「歴史総合」に向けて、日本と世界との関係を捉えながら学びを進める通史学習の充実を図っている。	○本文ページ脚注欄には「小学校・地理・公民・他教科との関連」コーナーが設けられ、関連用語を提示している。 ○資料には「小・地・公アイコン」が設けられ、それぞれの学習と関連した資料であることを確認できる。 ○コラム「未来に向けて」や最終章では公民的分野との接続を考慮している。	○小学校学習指導要領に取り上げられている人物を第1章1節で取り上げ、円滑に中学校での学習を始めることができる工夫をしている。 ○高等学校学習指導要領で目標として掲げられている内容の基礎を身に付けることができるように留意している。 ○高等学校「歴史総合」とのつながりを意識できるように、色彩などを工夫している。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○視覚的効果が高い幅広の AB判を用い、資料を豊富に掲載するとともに、写真や文字の鮮明さに留意し、見やすく印象的な紙面構成にしている。 ○ユニバーサルデザインフォントやフラットデザイン。カラーユニバーサルデザインの全面対応など、使いやすく学びやすい紙面になるように工夫している。	○資料を大きく掲載できる幅広の AB判を用いている。 ○ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインを使用するなど、すべての生徒が学習しやすいように工夫している。 ○丈夫で軽量かつ写真などの表現力に優れた用紙を使用している。	○ユニバーサルデザインのフォントや色調を導入し、様々な特性をもつ生徒の能力を伸ばせるように配慮している。 ○本文、資料、側注などが統一されたレイアウトで配置され、紙面の使い方を整理している。 ○図版に背景色や囲み線をつけるなどして図版と本文を区別しやすくするなど、インクルーシブ教育に配慮がなされている。	○ユニバーサルデザインフォントを使用するとともにカラーユニバーサルデザインを取り入れることで、見やすいように配慮されている。 ○ページ数を抑えて資源に配慮している。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	社会・歴史	種類	9種
--------	-------	----	----

(3)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	日本文教出版(116・日文)	自由社(225・自由社)	育鵬社(227・育鵬社)	学び舎(229・学び舎)
		歴史 116-72	歴史 225-72	歴史 227-72	歴史 229-72
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○見直しをもって学習に取り組める単元構成や、「見方・考え方」を働かせる学習活動を教科書内に設けることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしている。 ○「歴史を学ぶにあたって」「歴史を学んで」「歴史との対話』を未来に活かす」を設定し、現代の課題について、歴史をふまえて考えることができるようにしている。 ○「資料活用コーナー」「チャレンジ歴史」などで歴史を学ぶ楽しさを体験できるようにしている。	○「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」という学習指導要領の観点から、全体を構造的に関連付けて構成している。 ○各章の冒頭ページで、この章がどの時代まで学習するか、小学校で学んだ人物を中心に振り返ることができるような工夫をしている。 ○学習内容がいつの時代の学習なのかをわかるように、教科書左下に年表スケールで表している。	○「歴史絵巻」「虫の目でみる時代」「本文ページ」「特設ページ」「学習のまとめ」で構成し、課題解決型の学習の流れを明確にし、主体的な学びを実現できるようにしている。 ○各章の導入に「歴史絵巻」を設け、歴史の大きな流れを理解できるように工夫している。 ○各章・節・本文ページには単元を貫く問いとして「章の課題」「節の課題」「学習課題」を設け、学習内容に見通しが持てるように工夫している。	○本文や図版を基に、問いや疑問(課題)をもてるように編集し、学びの主体性を確立できるようにしている。 ○問いや疑問に回答する等の対話を通して、学び合えるように工夫している。 ○背景となる世界史や近・現代史の学習を充実させ、歴史的事象と今日の社会とを結びつけ、社会の課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるようにしている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○確認・表現コーナーでは、知識及び技能の確実な定着をねらうとともに、習得した知識及び技能を用いて文章化・言語化できるように工夫している。 ○資料活用コーナーを設け、情報の読み取りなどの技能を高めることができるように工夫している。 ○スキル UP によって、情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身につけることができるようにしている。 ○歴史の時代像をイメージできる図版で知識及び技能の確実な習得をサポートできるよう工夫している。	○単元の周辺に、小さなコラムや「知っとくポイント」など本文を補足し、発展させる教材を多く配置している。 ○欄外に年表を置き、単元で学ぶことが、年表のどこに位置するかを明確に意識できるようにしている。 ○男女のキャラクターを適宜配置し、セリフによって学習のポイントを示唆している。 ○各項の下に「チャレンジ」を設けて、学習内容を整理してまとめる課題を示し、基礎基本の定着を図っている。 ○章ごとに「復習問題のページ」を作り、重要語句の確認と地図上での押さえができるように配慮している。	○学習した内容を確認するための「確認」「探究」を設置し、学習内容の確実な定着を図っている。 ○各章末に「学習のまとめ」を設け、各時代を年表で整理できるようにしたり、出来事や人々の生活の様子などを、資料の読み取りを通して、多面的・多角的にまとめられるようにしたりしている。 ○本文の資料には、「資料活用」コーナーを設け、情報を集めたり、読み取ったり、まとめる活動ができるように工夫している。	○歴史の具体的な場面や人びとの生きる姿を通して各時代の特色を理解できるように留意している。 ○絵画資料・写真・文書・新聞・統計資料など多様な資料を大きく鮮明な画像で掲載し、読み取って活用できるようにしている。 ○部の学習のまとめでは、資料などを活用して基本的な知識の定着を図るようになっている。 ○巻末の年表には「日本の社会・政治・経済の動き」「日本の文化・宗教」「世界の動き」の欄を設け、大きな流れやできごとの関連をつかめるように配慮されている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○見方・考え方コーナーを設け、歴史的な見方・考え方の例を示している。 ○トライ、スキル UP、資料活用コーナー、チャレンジ歴史などで、思考力、判断力、表現力等の向上を図る場面を設定し、自分の言葉で表現できるように構成している。 ○各時代のまとめでは、時代の特色を自分の言葉で表現することをねらいとした活動ができるようにしている。また、思考ツールを取り上げ、その活用の仕方を QR コンテンツで丁寧に解説している。	○「時代の特徴を考えるページ」では、多様な学習課題を提起し、学んだことを自分で構造化できるように工夫している。また、文章や会話を中心とした表現能力を育てることも重視している。 ○章ごとに「調べ学習のページ」を設け、思考力や表現力等の育成を図る配慮がある。 ○見開きページに関する学習内容の年表や事件の詳細、できごとの理由などを資料として掲載し、より深く学べるように工夫している。	○「年代や時代区分の表し方」や「歴史的な見方・考え方を働かせる」を設け、歴史の見方と考え方について、具体例をあげて説明している。 ○歴史学習に必要な「社会的事象の歴史的な見方・考え方を説明し、本文とコラム「歴史ズームイン」で「見方・考え方」コーナーを設け、資料や学習内容について多面的・多角的な考察を深められるようにしている。 ○調べ学習やグループでの話し合い、発表をする「TRY！」コーナーや各時代を年表で整理できる「学習のまとめ」では、多面的・多角的に時代像をまとめることができる工夫をしている。	○豊富な資料から調べ、まとめる技能を身に付け、多面的・多角的な考察を深めて、表現活動できるようにしている。 ○歴史の場面を具体的に記述し、疑問や問いをもって、歴史の事象や課題について多面的・多角的に考える力を培えるようにしている。 ○章や部のまとめでは、年表や地図の活用、多面的・多角的に考えて話し合う活動、時代の特色に沿った表現活動を通して、主体的・対話的で深い学びを行える工夫をしている。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○学習の見直しをもったり、振り返ったりすることができるように、単元を貫く問いを構造的に設定している。 ○「チャレンジ歴史」を設け、発達の段階に合わせて、主体的・対話的で深い学びを実現できるようにしている。 ○対話的な活動が想定される問いには、学び合いマークを付している。 ○災害の歴史、政治参加の歴史、世界平和への取り組みなどについて考える課題学習が、社会の課題を自分ごととして捉え、解決する態度を養い、新しい時代に担う主権者の育成を目指した学習内容になっている。	○本文が、分かりやすく、生徒の興味をかき立て、知的好奇心に訴えられるような内容になるように工夫している。 ○大型コラム記事を配置し、歴史をさらに深く学べるように工夫している。 ○「調べ学習のページ」を設け、生徒の探究を促せるよう配慮している。 ○章ごとに「対話とまとめ図のページ」を設け、対話によって学びを深め、主体的にまとめていく工夫をしている。	○各章の冒頭に、その章で学習する時代の人々の生活を描いた絵画や写真を細かく見る「虫の目」で見る歴史」コーナーを設置し、身近な生徒や文化の目線で歴史をとらえられる工夫をしている。 ○「歴史ビュー」「人物クローズアップ」「歴史ズームイン」などを設け、多面的・多角的な視点から、内容をより深く学べるように工夫している。 ○世界史の視点からも日本の歴史を考察することにより、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う工夫がなされている。	○「章の扉」にテーマに基づいたその時代の各地の様子を表す資料を配置し、関心を引き出すようにしている。 ○部の冒頭に大きな時代を見渡した学習課題を置き、課題意識の育成を図っている。 ○グループ活動を通して、思考力・判断力・表現力を深められるように工夫している。 ○充実した現代史を学習し、主権者として現代の課題に向き合い、よりよい社会の実現に向けて考えることができるような工夫をしている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。 ○二次元コードを利用して「イントロダクションムービー」や「ポートフォリオ」、「確認小テスト」で学習することで、個別最適な学びができるような工夫をしている。	○学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。	○学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。 ○各章冒頭に二次元コードを付し、学習内容に関連する動画の閲覧や情報収集を助け、自学自習ができる配慮がなされている。	○学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。 ○琉球・沖縄から蝦夷地・北海道・千島まで地域の歴史や文化を扱い、充実した地域の視点を入れている。
	(5) 他の教科等との関連	○「歴史との対話」を未来に活かすなどで、現代社会の諸課題について、歴史的背景を明らかにし、公民的分野の学習につなぐように意識している。 ○小学校、地理や公民の学習とのつながりを示した連携コーナーを設けたり、道徳に関する教材、持続可能な開発目標(SDGs)にも関わる現代的な課題を考える教材を多数掲載したりしている。	○巻末に世界各国・王朝の一覧を資料として掲載しており、世界史の内容を整理している。	○「歴史の流れと先人の活躍」では、小学校で学んだ歴史的な人物について確認できるようにしている。 ○「年代や時代区分の表し方」や「歴史的な見方・考え方を働かせる」を設け、高等学校の「歴史総合」に必要な歴史の見方や考え方について、具体例を挙げて説明している。	○世界史とのつながりを重視し、世界と日本のつながりの中で歴史を学習できるようにしている。 ○高等学校の歴史総合とのつながりを意識し、豊かな歴史認識を培えるように工夫している。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○AB 判を採用し、図版等を大きく示して、興味・関心を高めやすくするとともに、左右のスペースに各種資料を掲載して、本文内容の補完の充実を図っている。 ○ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザイン、ルビ付けにより、どの生徒にとっても使いやすい配慮がなされている。	○AB 判を採用し、教科書の各項で扱われている資料が大きく見やすくしている。 ○巻末に「元号→西暦早見表」を掲載し、わかりやすくしている。	○ユニバーサルデザインフォントを使用し、ふりがなには読み取りやすいゴシック体を用いたり、グラフや地図などの資料には色覚特性のある生徒でも識別しやすい色を使用したりしている。	○文章表現や漢字の使用、ルビ振り等を、想定される学習学年に即して編集している。 ○主体的な学習を保障するために、太字をなくしている。 ○カラーユニバーサルデザインに配慮し、色、線、マークなどを見やすく工夫している。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	社会・歴史	種類	9種
--------	-------	----	----

(3)枚中(3)枚

採択基準	基本観点	令和書籍(236・令書)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		歴史 236-73	教科書の記号・番号	教科書の記号・番号	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統と文化の特色を広い視野に立って豊かに、わかりやすく編集している。 ○少数説もフォローし、幅広い知識を習得するために多くの事実を、科学的根拠・データを用いて説明している。 ○歴史の光と影の両面を学ぶことで、愛国心や他国を尊重する心が育つように工夫している。 ○答えではなく問いを提起することを重視し、歴史の真実を探求する自主性を促す工夫をしている。 			
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○本文を中心に豊富な情報量が盛り込まれ、コラムにおいてさらに補足する形で、あまり取り上げられていない学説にも焦点が当てられ、幅広い知識を習得するために多くの事実を科学的根拠・データを用いて説明されている。 ○基本的な知識や技能の習得と、発展的学習をバランスよく構成している。 ○各章ごとのまとめでは「政治」「文化」「外交」「産業」の観点から学習内容を振り返られるになっている。 			
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○「国史を学ぶにあたって」の中で年代や時代の表し方や歴史的な見方・考え方を示している。 ○各章のまとめとして「時代ごとの特色をとらえよう」「新聞にまとめてみよう」などを設け、時代ごとの特色を自分の言葉で表現する活動を行えるようにしている。 ○一義的ではなく多角的に理解させ、答えを求めるのではなく問いを提起する編集になっている。 			
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○小見出しに「いろは順」を用いるなど、ビジュアル面にもこだわることで、読む楽しみを提示している。 ○基本的内容の列挙にとどまらず、より高いレベルの知的探求を手助けし、歴史の真理を追い求める姿勢を育成できるように、情報量と問いを意識して構成している。 ○「歴史について議論しよう」「ディベートをしてみよう」「ディスカッションしよう」を設け、主体的・対話的に学習に取り組めるように工夫している。 			
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。 			
	(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○「国史を学ぶにあたって」で小学校の歴史の学習を振り返られるようにしている。 ○様々な場所に、地図や資料が配置され、地理・公民分野との関連を見つけられることができる。 ○日本美術図鑑として、歴史的な出土品や仏像、絵画作品等が豊富に掲載され、美術史の視点で歴史を捉えることができる形になっている。 			
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○縦書きを採用し、小見出しにも「いろは順」を用いるなど、読み進める楽しみを提示する工夫をしている。 ○資料や注記にはゴシック体を採用している。 ○本文の資料には必要な情報を簡潔に提示し、巻末に各時代の日本や世界の様子を表す歴史地図をカラーで大きく提示して歴史の流れをつかめるようにしている。 			

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	社会・(公民)分野	種類	6種
--------	-----------	----	----

(2)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	教育出版(17・教出)	帝国書院(46・帝国)	日本文教出版(116・日文)
		公民 002-92	公民 017-92	公民 046-92	公民 116-92
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○「探求のステップ」の問いを章末でまとめさせるとともに、「ふり返し」の内容を充実させている。 ○国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」を取り上げ、国際社会が抱える諸課題の理解が促せるようになっている。 ○巻末の憲法の難しい語句については、解説を付して詳しく説明している。 ○日本の領土について地図や写真で明確に記述している。	○「学習課題」を明示し、課題意識を持ちやすくすると共に、単元のまとめとして学習した語句を説明したり、さらに調べたりする課題を設定し、シンキングツール等を使って思考を深める課題を設定している。 ○巻末の憲法の難しい語句については、解説を付して詳しく説明している。 ○日本の領土について、地図や写真で明確に記述している。	○部や章の学習内容を見通せる「学習の前に」や、章・節ごとの単元を貫く問い、仕組みなどの概念が理解しやすい本文、単元最後の「学習を振り返ろう」の形で単元が構造化され、単元の学習を確実に進められるよう工夫されている。 ○巻末の憲法の難しい語句については、解説を付している。 ○日本の領土について、地図や写真で明確に記述している。	○学習課題の解決に向けての手がかりとなる「見方・考え方コーナー」を全てのページに設け、「アクティビティ」等を通して繰り返し「見方・考え方」を鍛えることができるようにしている。 ○巻末の参考法令の難しい語句については、解説を付している。 ○日本の領土について、地図や写真で明確に記述している。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○1時間ごとに「学習課題」を設定し、「チェック&トライ」で1時間の振り返りを行えるようにしている。 ○構造化された「問い」を軸にする課題解決的な単元構想で、「探求課題」を立て、「学習課題」を提示し、「チェック&トライ」の2段階で学習課題を解決できるようにしている。	○1時間ごとに「学習課題」を設定し、「確認」で本時の学習を整理し、「表現」で学習したことを活用して自分の言葉で表現させることで学びを深めさせている。 ○各章の導入に設けた「学習のはじめに」のページで、学習内容と章全体の学習課題を掲載し、見通しを持ちやすくしている。	○興味関心を引く「導入」、学習を見通せる「学習課題」、丁寧に分かりやすい「本文」、学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化されている。 ○「技能をみがく」コーナーが6か所設けられ、学習する上で必要な基礎的な技能が習得できるように配慮されている。	○1授業時間を見開き2ページとし、この見開きで何を学ぶのかが「学習課題」で明確に示されている。右ページ側注欄では「確認」コーナー「表現コーナー」が設けられ、基礎的な知識及び技能を用いて文章化、言語化できるようにしている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○多様な思考ツールを用意し、思考を整理することができるようにしている。 ○現代社会の見方・考え方を活用して取り組む場面に「見方・考え方」のコーナーを設けたり、マークを付したりしてより深い思考・判断ができるようにしている。 ○「もっと公民」を設け、学習内容を基にもっと深めたり、異なる視点で捉えたりしながら学習ができるようにしている。	○「THINK」や「Q」のコーナーが適宜設けられ、地図、グラフ、絵、図解などの資料を読み取って考察する問題が設けられている。 ○見方・考え方を活用して考察する場面に、「見方×考え方」マークを付し、章末の「学習のまとめと表現」のページでは、考察し、構想し、表現する言語活動を取り入れている。	○「確認しよう」では本時の学習での習得事項の確認を行い、「説明しよう」では本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられている。これにより、言語活動を毎時間くり返し行い、思考力・判断力・表現力を育成できるように配慮されている	○アクティビティ・チャレンジ公民では、習得した知識を使い、見方、考え方を働かせながら考察する問いを設けている。また、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなど、言語活動に関わる学習ができるようにしている。 ○本文ページには見方・考え方コーナーを設け、その見開きでの学習課題の解決に向けての手がかりとなる、主な見方・考え方の例を示している。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○各章の初めに章を貫く問い「探求課題」を設定し、学習への動機づけや学習への見通しの方向づけを行っている。 ○「みんなでチャレンジ」を設け、話し合い等の対話的な活動を通じて学習を深め、価値判断や意思決定を行えるようにしている。	○授業の初めに位置付けた「学習課題」を受けて、資料の読み解きのために随時設けられている「THINK」を経て、1時間の学習の最後には「確認/表現」のコーナーの「問い」に取り組み、生徒が自ら学び、自ら考える学習ができるように配慮されている。	○単元を貫く「章の問い」、「節の問い」、各見開きの「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」、章末の「学習を振り返ろう」で問いが構造化され、単元のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」が実現できる構成になっている。	○生徒が学習の見通しを持ったり学習を振り返ったりすることができるよう、教科書には単元を貫く問い「章の問い」「節の問い」を構造的に設定している。 ○話し合いなどの対話的な活動が想定される問いには、「学び合い」マークを付している。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○二次元コードから動画や思考ツール、社会科用語マスターなどにアクセスすることができ、数多くの二次元コンテンツが用意されている。	○二次元コードから生徒が活用することができる動画やワークシートクイズ教材、デジタル・コンテンツにアクセスできるようにしている。	○二次元コンテンツから動画や資料、用語解説等にアクセスすることができ、数多くの二次元コンテンツを用意している。	○タブレットマークを付けた箇所では、Web ページに数多くのコンテンツを用意し、活用できるようにしている。 ○巻末では、「持続可能な社会」を目指して、考察し、レポート作成プレゼンテーションと一連の活動を具体的に示している。
	(5) 他の教科等との関連	○理科、道徳、家庭科など他教科でも扱う学習内容にリンクマークを付し、二次元コードを読み取って該当教科の教科書を参照することで、教科を横断して多面的に学習を深められるようにしている。 ○小学校社会科で学習した内容を用語や写真で振り返る活動を設け、円滑に接続できるよう工夫している。	○脚注部には、「小学校、他分野、他教科との関連」や、「関連する SDGs」を適宜「関連」コーナーで表示し、系統的・横断的な学習をしやすいようにしている。	○部の冒頭の「部扉」に「小学校・地理・歴史を振り返る」として、他分野で学習してきた語句を振り返る工夫をしている。 ○小学校での学習や、他分野・他教科との関連のある題材を示し、物事を多面的・多角的に捉える足がかりとしている。	○導入ページ「学習のはじめに」では、小学校社会科における公民的分野に関わる学習内容を再確認することができるように構成している。 ○巻末に「公民と他教科とのつながり」を設け、公民的分野の学習内容と他教科との関連を示唆し、教材を多面的・多角的な捉え方ができるようにしている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○資料を豊富に掲載しているとともに、写真や文字が鮮明である。 ○特別支援の観点から「フラットデザイン」を採用し、学習に必要な情報に集中できるようにしている。 ○教科書全体を通してユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を高めている。	○視力や色覚に留意し、すべての生徒にとって見やすいユニバーサルデザインに基づく紙面づくりがなされている。 ○文字については誰もが読みやすいユニバーサルデザインフォントによる黒文字を基本とし、白抜き文字や色文字は十分な大きさを確保している。	○本文や図版などは、文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○各見開きのデザインは、生徒が学習しやすいように、本文、資料、側注などが統一されたデザインとなっている。	○文字は視認性の高いユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ふりがなは大きめのゴシック体を使っており、視認性を高める配慮をしている。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	社会・(公民)分野	種類	6種
--------	-----------	----	----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	自由社(225・自由社)	育鵬社(227・育鵬社)			
		公民 225-92	公民 227-92			
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○「公民を学ぶ目的」を巻頭で提示し、よりよい社会を築くために自分たちが公民としてどうあるべきかを示している。 ○各章の最後にある「学習のまとめと発展」のページは、最重要語句やさらに学習を深めるための問題が記載されている。 ○日本の領土について、地図や写真で明確に記述している。	○各章の導入に、その章の学習内容の趣旨をとらえさせる言語活動の見開きを設け、学習内容への興味・関心を促すように工夫している。 ○日本の領土について、地図や写真で明確に記述している。 ○巻末の参考法令の難しい語句については、解説を付している。			
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○一単元ごとにページ左右に用語解説のコーナーを設け、基礎的・基本的な知識の習得を図っている。 ○単元の最後の「ここがポイント」で、この授業でおさえるべき重要な確認事項をまとめ、ポイントを理解しやすくしている。 ○各章の最後に「学習のまとめと発展」を設け、最重要語句を並べ、理解できたか自己評価できるようにしている。	○各時の冒頭に学習「課題」を載せ、学習内容の見通しができるようにし、末尾に基礎的・基本的な内容の学習を確認する課題「確認」を掲載することで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。			
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○単元右ページの下に「ここがポイント！」を設け、思考力や判断力を育む工夫が見受けられる。 ○章末の「学習のまとめと発展」において、最重要語句を振り返りで確認した後、「学習の発展」に進んでより進んだ課題に挑戦できるよう工夫している。 ○「アクティブに深めよう」(8か所)を設け、課題を主体的・対話的に取り組めるよう工夫している。	○生徒が多面的多角的に考察できるようにバランスの取れた資料の選定、本文の記述となっている。平和的で民主的な社会の担い手として必要な思考力・判断力を養うような中身となっている。 ○厳選された教材・資料を通して、世の中の変化や現代の課題を多面的・多角的に考察することができるようにしている。			
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○多くの単元ページの中に「やってみよう」を設け、本時の学習のまとめとして課題を提示し、対話的に学習に取り組む工夫が見受けられる。 ○章末の「学習のまとめと発展」において、最重要語句を確認した後、「学習の発展」に進んでより進んだ課題に挑戦できるようにしている。 ○コラム「もっと知りたい」を設け、重要なことがらを深く理解できるようにしている。	○「確認」「探究」「見方・考え方」「資料活用 TRY!」「学習を深めよう」「やってみよう」など豊富な言語活動を設けている。 ○「スキルアップ！」を4か所設置し、発表や議論の仕方、ロールプレイング、ディベート、KJ法、ランキング、ポスターツアー、公民の基礎的な技能を身につけられるようにしている。			
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○巻末に「課題の探求」を設置し、レポート作成やディベートの仕方を具体的に示し、態度や資質を育めるよう工夫している。	○新聞活用教材(NIE)を促すために、新聞記事を多数掲載している。			
	(5) 他の教科等との関連	○他分野、及び他教科と関連させ、持続可能な社会について考察していくよう工夫している。 ○各章の中で、多くの人物を紹介し、歴史的分野の内容を振り返りながら学習できる工夫をしている。 ○巻末に「現代社会の歩み」の資料を掲載し、現代史と関連させて振り返る工夫をしている。	○小学校社会科で学習した内容については各章扉で、地理的分野・歴史的分野については該当の見開きで紹介し、小・中学校の系統性と3分野の関連性を高め、スムーズに学習に入れるようにしている。 ○歴史学習や道徳教育との関連が図られている。			
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○全体で72単元として構成し、教科書全体で単元に連番の番号をつけ、単元を重ねて学習できるようにしている。 ○重要語句は、ゴシックで表記し、すべて巻末のさくいんに登録している。	○図版は色覚特性を踏まえて、判別しやすい色の使用や表示の工夫をした。ふりがなにはゴシック体を用い、小さな文字が読み取りにくい生徒も読みやすいように配慮している。 ○文字は読みやすい大きさとし、教育外漢字や固有名詞などは適宜ふりがなを振るなど、丁寧な記述をしている。			

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	社会・地図	種類	2種
--------	-------	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	帝国書院(46・帝国)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		地図 002-72	地図 046-72	教科書の記号・番号	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	学習指導要領に示す目標に従い、世界や日本の地理的認識を養う内容を地図とともに、豊富な資料を用いて取り上げている。 ○地理・歴史・公民の学習をサポートできるように主題図や資料を掲載している。 ○近年の社会情勢を意識した資料を積極的に掲載し、現代社会の諸課題の理解を促すとともに、解決するための資質・能力を養おうとしている。 ○日本の領域に関する排他的経済水域を示し、東西南北の島の名称と写真及び北方領土、竹島、尖閣諸島の名称と写真を表記している。	学習指導要領に示す目標に従い、世界や日本の地理的認識を養う内容を地図とともに、豊富な資料を用いて取り上げている。 ○地図の活用を通して世界と日本の地域的特色が捉えられる工夫されている。 ○主体的に学び資料活用が高まる工夫がされていると共に、個別最適な学びを支援するコンテンツを用いている。 ○日本の領域に関する排他的経済水域を示し、東西南北の島の名称と写真及び北方領土、竹島、尖閣諸島の名称と写真を表記している。また、領域の範囲を示す模式図と主な国の排他的経済水域面積の比較を取り上げている。		
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	世界と日本の諸地域の地域的特色について、地域ごとに設けている資料のページで様々な主題図、写真、グラフ等を掲載している。 ○世界の一般図では、国名や主要都市名、日本の一般図では、市町村名などを掲載している。 ○日本列島の自然環境について、火山と地震の分布やハザードマップの例を記載している。 ○小学校での履修内容の振り返りを取り入れた記載方法になっている。	世界のページでは、気候・人口・宗教・言語の分布が読み取れる主題図を掲載している。 ○地理的機能の基本が身につけられるように巻頭に「この地図の使い方」が掲載されている。 ○日本の災害や防災について、地震と火山の分布や気象災害等の災害から身を守るためのハザードマップを掲載している。 ○小学校校での履修内容の振り返りを取り入れた記載方法になっている。		
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	思考力・判断力の育成を図る主題図、分布図等を掲載している。 ○地理的分野の探求課題に沿って学習する際に活用できる資料を掲載している。 ○「Bee's eye」の問いに取り組むことによって、資料を読み取る力や活用する力を高めたり、社会の在り方や自分の行動について考えたりすることができる。	思考力・判断力の育成を図る主題図、分布図等を掲載している。 ○学習活動を通して地理的な見方・考え方を働かせられ、地図活用の技能(スキル)が身につく問いコーナー「地図で発見!」を全156問設けている。 ○地域の状況、産業などの資料は豊富で、地理的な見方・考え方が深まる工夫がされている。		
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	社会科学習に興味を持たせるために、キャラクターの発問形式の吹き出しを掲載したり、多彩な二次元コードで学びをサポートしたりしている。 ○Bee's eye(ビーズ アイ)を新設し、深く読み取りできる問いで、一見開きに1問以上の問いが設定されている。 ○SDGsのゴールの一覧を掲載し、解決に向けた態度を養うことができる。	「地図で発見」で、地理的な見方・考え方を働かせる問いを掲載したり、多彩な二次元コードで学びをサポートしたりしている。 ○調べ学習を支援するコンテンツを971用意し、「個別最適な学び」を支援している。 ○SDGsの特設ページを新設し、SDGsについて考察できるページや資料横にアイコンを配置している。		
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	高等学校の学習内容との関連を示す印や、発展等の記載はない。 ○教師用指導書に指導書付属には、さまざまな地図を収載している。	高等学校の学習内容との関連を示す印や、発展等の記載はない。 ○教師用指導書では、ワークシートや白地図などのwebサポートを行っている。 ○近畿地方の地図において、丹後地域の旧町の地名がすべて掲載されている。		
	(5) 他の教科等との関連	他教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間との関連を示す印等はない。 ○修学旅行でも活用できる地図を掲載し、調べ学習にも役立つようになっている。 ○世界の国や首都を示した世界地図や日本の都道府県と都道府県庁所在地を示した日本全国図を掲載し、小学校での学習を振り返られるようになっている。	他教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間との関連を示す印等はない。 ○総合的な学習の時間や修学旅行の事前・事後学習に活用できるように工夫されている。 ○防災の資料は、理科などでも活用することができる。 ○世界の地図では、外国語学習にも役立つように、国名や主要都市名などが欧文されている。 ○修学旅行や平和学習に活用できる地図を多数掲載している。		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	総ページ数は176ページ(A4版)で、活用方法、世界、日本、統計、さくいんで構成されている。ページの端を項目ごとに色分けしている。 ○ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用することで、文字の視認性を向上させている。 ○ふり仮名には読み取りやすいゴシック体を採用し、読み取りやすくなっている。 ○視覚的効果が高い大判(A4判)を用い、写真や文字の鮮明さにすることで、見やすい紙面となっている。	総ページ数は198ページ(A4版)で、使い方、世界、日本、統計、さくいんで構成されている。ページの端を項目ごとに色分けしている。 ○UDフォントを採用し、可読性の高い丸ゴシック系を多用している。 ○色覚に特性のある生徒でも色を識別して地図が読めるように、カラーユニバーサルデザインに配慮し、色彩表現への工夫がなされている。 ○インクルーシブ教育に配慮し、都道府県名などを手話で表すコーナーを設けている。		

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	数学	種類	7種
--------	----	----	----

(4)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	大日本図書(4・大日本)	学校図書(11・学図)	教育出版(17・教出)
		数学 002-72・82・92	数学 4-702・802・902	数学 011-72・82・92	数学 017-72・82・92
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○章の導入で、日常生活や数学の事象から問題を発見し、数学的な見方・考え方を働かせ解決できる構成である。 ○学習過程を可視化できるよう、側注の問題解決に沿って自ら考え、対話を通して考えを深める授業ができるよう工夫している。 ○節末・章末に問題A・B(活用問題として他教科や日常の問題を含む)、巻末に補充問題があり、習熟に応じた活用ができるよう工夫している。	○章の導入が、生活上活用し得る問題で設定され、数学を学ぶ意義が感じられる構成である。 ○全章に、学習過程のイメージを4ステップで示した課題があり、各章での学習を身近な場面で活用したり、探究できるよう工夫している。 ○節末・章末に、練習やふり返りの問題、「力をのぼそう」という発展問題、巻末に補充問題があり、豊富な問題設定で習熟に応じた活用ができるように工夫している。	○章の導入で、身近な場面から自ら疑問を発見し、主体的に学べる構成である。 ○「数学的活動」のページでは、他者の考えに触れながら問題解決ができ、新たな問題発見の提示により、深い学びに向かう態度が育まれるよう工夫している。 ○節末・章末に「確かめよう」問題と、基本・応用・発展に分類した練習問題、巻末に復習問題があり、習熟に応じた活用ができるように工夫している。	○章の導入で、実社会や日常生活、先端テクノロジーなど数学に関わる話題を取り上げ、数学の必要性を感じられる構成である。 ○活用場面では、学びのプロセスが可視化でき、問題発見・解決の課程では主体的・対話的で深い学びが展開できるよう工夫している。 ○節末・章末には基礎や活用の問題、巻末には、補充問題や入試に近い実力アップ問題があり、習熟に応じて活用できるよう工夫している。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○「例」と同じ型で、「問」を設け、「例」と「問」の差によるつまづきがないようにしている。各問に、マークが付けられ生徒の習熟に応じた問題があり、個々に応じて、基礎・基本が身につくよう配慮している。 ○1年0章、もくじ、「ちょっと確認」で、算数から数学への接続を可視化している。 ○節末、章末の問題だけでなく、補充題「クイックチェック」を取り上げている。	○学習内容を「たしかめ」と「Q」で確認した上で、さらに「プラスワン」の問題等、個々の習熟に応じて利用できる問題を設けている。 ○導入に「考えよう」、側注に「思い出そう」を用いて、小学校や前学年で学んだ内容を記載し、つながりが分かりやすい工夫をしている。 ○節末、章末の問題だけでなく、巻末にも補充問題を取り上げている。	○例で、解法や解答を示すだけでなく、基になる概念や原理・法則が理解できるよう工夫している。また、例の後に「問」を設定し基礎・基本の定着を図れるよう工夫している。 ○節末に「確かめよう」を設定し、基礎・基本の理解の確認ができるよう配慮している。また、適宜「計算力を高めよう」を設け、基礎・基本の定着をねらった問を準備している。	○生徒に多く見られるつまづきに対して適宜、吹き出しを用いて取り上げ、基礎・基本が身につくよう工夫している。 ○「例」「例題」「たしかめ」「問」「基本の問題」など多数の問題を示すことで、スモールステップで着実に学習を進められるよう構成している。また、必要に応じて生徒自らが自分自身の習熟を確認できる配慮している。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○「深い学び」で、「大切にしたい見方・考え方」を示し、「数学の問題発見・解決の過程」を重視した数学的活動を各章に設け、「ふり返る」の過程で、大切にしたい見方や考え方を焦点化する発問を設定している。 ○章末に豊富な「活用の問題」を取り上げるなど、日々の学習を通して思考力・判断力・表現力を養い、伸ばすことができるように工夫している。	○各章には「利用」を設け、問題発見・問題解決の流れに沿って取り組む課題を設けている。 ○章末には「活用・探究」を設け、学習内容を活用したり、数学の世界をさらに探究したりする問題を通して、思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるように工夫している。	○「算数・数学の学習過程のイメージ」を実現できるよう章全体の構成を工夫している。 ○各章に「活用」を設定し、いろいろな場面で数学が活用できることを理解できるよう構成している。 ○「深めよう」では、既習事項を基に数量や図形の新たな性質を見出す場面を設定するなど、思考力・判断力・表現力を伸ばせるように工夫している。	○問題発見・解決の過程を巻頭「みんなで数学をはじめよう」や「学びのプロセス」、「(学習過程で生じる生徒の問い) → (学習してわかったこと、解決のしかた) → (新たな疑問)」のサイクルで表し、思考力・判断力・表現力が身に付くよう工夫している。 ○巻頭「大切にしたい数学的な見方・考え方」で、既習事項との関連だけでなく、学年を超え系統的に見方・考え方の大切さがわかるよう工夫している。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○各章の導入「章のとびら」で、日常生活の場面から考えさせられる題で「問いかね」をし、主体的に取り組める工夫をしている。 ○各章に「深い学び」を設定し、「問題をつかむ」、「見通しをたてる」、「問題を解決する」という過程の中で、生徒同士で対話的に学習し、学びを深められる工夫をしている。	○問題発見・課題解決の流れとして、「問題を見い出そう」、「解決のしかたを探ろう」、「解決しよう」、「深めよう」の4つのステップを示すことで、学習過程が意識できるよう工夫している。 ○各章の「活動」の問題でこれまでの学習内容や思考の段階に対応させて、仲間と対話的に問題解決に取り組めるよう工夫している。	○身のまわりや数学の学習の中から、生徒自ら「問い」を発見し、問題解決の見通しを立てて解決していく学習の流れを設定している。 ○「数学的活動のページ」を設け、生徒間の対話を中心に、問題解決を図る工夫をしている。 ○章末に、「できるようになったこと」や「さらに学んでみたいこと」を設定し、次の学習の意欲につながるよう構成している。	○章の導入「Let's Try」や導入課題「Q」で主体的に問いを持って学習できる工夫をしている。 ○「学習してわかったこと」、「解決のしかた」、「数学的な見方・考え方のよさ」などを、側注に示すことで、学習内容の理解が深まる工夫をしている。 ○各章の節と節の学習をつなぐ問いを示し、課題意識を接続しながら学べる構成にしている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○「数学のまど」や「数学の自由研究」で、高校など先の学習につながる発展的な内容を多く取り上げるなど、学習指導要領に示していない内容がわかるように工夫している。 【例】 ・グラフを使って考えよう(1年) ・パスカルとフェルマーの手紙(2年) ・いろいろな数の分母の有理化(3年) ・瞬間の速さ(3年)	○「知りたい!高校ではどんな数学を学ぶのかな?」で、高校の学習内容を中学校の学習内容と関連付けて取り上げる工夫をしている。また、「社会にリンク」、「MATHFUL」で数学の学習をひろげることができるよう工夫している。 【例】 ・立方体の切断(1年) ・関数を使って予想しよう(2年) ・1次不等式(3年) ・三角比(3年)	○3年巻末の「高校へのかけ橋」で、中学校の内容と関連のある題材を取り上げ、高校の数学に興味・関心を持って取り組めるよう工夫している。また、「数学へのいざない」、「深めよう」、「さらなる数学へ」でも発展的な内容を取り扱っている。 【例】 ・立方体の切り口の形は?(1年) ・どちらが有利?(2年) ・たすきがけの因数分解(3年) ・ $y=x^2+1$ のグラフ(3年)	○各学年の章末「数学の広場」などで、高校数学へつながる発展的な学習内容に取り組めるよう工夫している。 ○3年巻末「ひろがる数学」では、高校数学で学習する内容を中学校数学と関連付けて紹介し、数学の学習のひろがりを実感できるようにしている。 【例】 ・三角形の外心と内心(1年) ・立方体の切り口(2年) ・三角形の重心(3年) ・新しい因数分解の公式(3年)
(5) 他の教科等との関連	○「身のまわりとつながる」や「社会とつながる」、「数学同士がつながる」などで他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・オリンピック、パラリンピック[社会] ・数学×仕事[キャリア教育] ・漂着ゴミの量[環境] ・伝統工芸[美術] ・プログラミング教育[技術・家庭科]	○「身のまわりやほかの教科での学習に関連」や「社会にリンク」、「MATHFUL」などで他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・震源から何km離れているかな[理科・防災] ・エンブレムのしくみを解明しよう[美術] ・どんな運動をどれくらい行えばいい[保健体育] ・薬の効き目の変化[健康] ・パスタメジャーを作ろう[技術・家庭科]	○「深めよう」、「活用」などで他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・時刻がもどる?[社会] ・カーボンニュートラルを目指して[SDGs] ・CTスキャンと数学[理科、放射線技師] ・ダイヤグラム[社会、鉄道会社] ・スピードと停止距離の関係は?[理科]	○「数学しごと人」、「学びのプロセス」、「数学の広場」で他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・気象予報士[理科、気象] ・理系から弁護士へ[社会] ・都市模型製作者[社会] ・地球温暖化[理科] ・黄金比[美術]	

3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<p>○ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がある。</p> <p>○QR コンテンツでは、ヒントと解説動画や、グラフ・図形が動かせるシミュレーション、証明メーカー、プログラミング思考などがある。</p> <p>○自学自習で利用できるフラッシュカードがある。</p> <p>○教科書冒頭に「この本の構成と使い方」を記述し、指導者・保護者も含め丁寧な説明がある。</p> <p>○学年に応じて巻末に思考力・表現力を高める「数学の自由研究」がある。</p>	<p>○ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がある。</p> <p>○QR コンテンツでは、活用・探求の動画、グラフ・図形を動かせるシミュレーションなどがある。</p> <p>○教科書冒頭に「この教科書の使い方」を記述し、指導者・保護者も含め丁寧な説明がある。</p> <p>○学年に応じて巻末に思考力・表現力を高める「数学の世界へ」がある。</p>	<p>○ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がある。</p> <p>○QR コンテンツでは、ヒントや解説、動画、グラフ・図形を動かせるシミュレーション、プログラミング思考などがある。</p> <p>○教科書アドバイザーとして、生徒の自由な質問にチャットボットが答える機能がある。</p> <p>○教科書冒頭に「この教科書を使った数学の学び方」を記述し、指導者・保護者も含め丁寧な説明がある。</p> <p>○学年に応じて巻末に思考力・表現力を高める「さらなる数学へ」がある。</p>	<p>○ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がある。</p> <p>○QR コンテンツでは、ヒントと解説、アニメーションや映像動画、グラフ・図形を動かせるシミュレーションなどがある。</p> <p>○教科書冒頭に「教科書の使い方」、「みんなで数学をはじめよう」を記述し、指導者・保護者も含め丁寧な説明がある。</p> <p>○学年に応じて巻末に思考力・表現力を高める「数学ライブラリー」がある。</p>
---------------------	--------------	--	---	---	---

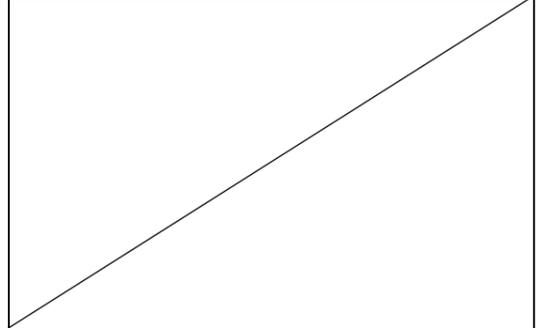
(4) 枚中 (2) 枚

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	数学	種類	7種
--------	----	----	----

(4)枚中(3)枚

採択基準	基本観点	啓林館(61・啓林館)	数研出版(104・数研)	日本文教出版(116・日文)
		数学 061-72・82・92	数学 104-73・83・93	数学 116-72・82・92
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○章の導入は、身のまわりの題材から興味・関心を持ち学習に向かえる構成である。 ○全章、単元の利用のページに、ステップ方式の課題があり、解決の課程で自ら問題を発見、解決し、深める力が身につくよう工夫している。 ○章末に、知識・技能の定着をはかる「たしかめよう」問題、力を伸ばす「身につけよう」問題、巻末には総仕上げの「力をつけよう」問題があり、習熟に応じた活用ができるよう工夫している。	○章の導入は、自ら問いを持てるような題材や新しい内容の必要性を感じられる構成である。 ○数学的に考え、説明する力を育む工夫として、対話形式で構成するページが多く、問題解決のプロセスに焦点があたるよう工夫している。 ○節末・章末に問題A・Bや活用問題、巻末に「チャレンジ編」問題が設定してある。デジタルコンテンツで公立高校の入試問題にアクセスできるなど、豊富な活用問題を用意している。	○章の導入は、身のまわりの題材から興味・関心を持ち学習に向かえる構成である。 ○小節が2ページ構成となっており、Question・めあて・用語・例題・演習の流れで整理し、基礎・基本が身につくよう工夫している。 ○節末・章末に「基本の問題」や知識・技能の取得や定着を図るための練習問題に加え、「とりくんでみよう」がある。巻末には補充問題があり、習熟に応じた活用ができるよう工夫している。
	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○「例」「例題」にタイトルをつけ、学習内容を可視化し、復習などで役立つよう配慮している。 ○章末問題では、学習内容の確実な定着が図れるよう各問題題記列の横に学習したことと該当ページを示し、確認しやすい工夫をしている。 ○「補充問題」で、くり返し取り組める問題を用意しており、基礎・基本の定着が図れるよう工夫している。	○新しい学習内容をただ提示するだけでなく、既習内容をもとにして考えられる配慮をしている。 ○例や問をなるべくスモールステップで構成し、つまづきを減らす工夫をしている。 ○教科書にQRコードを掲載し、ホームページを通じて、基礎的・基本的な教科書の補充問題に取り組むことができるように工夫している。	○本時のめあてや「例」「問」の意図を明確にし、基礎・基本が定着しやすいよう工夫している。 ○既習事項を復習する機会を設け、つまづきを未然に防ぐ配慮をしている。 ○問には個々の習熟に合わせて取り組めるよう「チャレンジ問題」が横の欄に準備しているだけでなく、巻末にもさまざまなタイプの問題に取り組めるよう工夫している。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○利用場面に「問題を設定する、解決する、解決の過程を振り返って改善を図ったり新たな問題を設定したりする」「ステップ方式」を導入し、数学的な問題発見・解決の過程を意識できるように工夫している。 ○「章のあしあと」で、既習事項とその章で学んだ性質の共通点などを整理することで、思考力・判断力・表現力を育成しようとしている。	○通常の「問」に思考力・判断力・表現力を必要とする問題を適宜配置し、確かな理解と活用力が深まるよう工夫している。 ○各所に「見つけよう」「やってみよう」を配置、章末に「学んだことを活用しよう」を取り上げて、学んだ知識を活用して解決する問題を設定するなど、思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるようにしている。	○巻頭の「数学の学習を始めよう！」で、問題発見・解決の過程を意識できるようにし、数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する数学的活動の場面として、「深めよう」を適宜設けている。 ○上記場面の横の欄「大切な見方・考え方」にどんな見方や考え方を働かせるのかを具体的に示している。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○節ごとに「学習のとびら」を設定し、この説で学ぶ内容を考えることで、学習意欲を高め、主体的に取り組める構成にしている。 ○協働的に問題を解決する「説明しよう」、「話しあおう」を設定し、対話での学習ができるよう工夫している。 ○考え方のポイントを示したり、本文の理解を助ける説明を丁寧にするすることで、主体的に学ぶ意欲を持てるよう工夫している。	○最新の話題を取り入れて、興味を持たせ、主体的に取り組める工夫をしている。 ○新たな内容を学ぶ活動の中で、「見いだしたことがら」、「解決するための方法」、「成り立つ理由」といった考えを整理し説明する機会を設けている。 ○説明したい内容に合わせてグラフの設定をしたり図形を動かすことができる工夫をしている。	○日常生活や社会の事象を扱い、数学的活動を取り入れて言語活動が充実できる工夫をしている。 ○巻末の「学び合おう」では、対話シートを使って自分の考えを整理し、互いに考えを伝え合う「協働的な学び」を通して、考える力を高める工夫をしている。 ○「大切な見方・考え方」を見ることで、問題解決する場面でどのような考え方を働かせたのか確認することができる。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○「学びをいかそう」で、中学校の学習指導要領の範囲を超える内容を「発展」マークをつけて扱い、生徒の興味・関心に応じて取り組むことができるように工夫している。 【例】 ・最大公約数と最小公倍数(1年) ・どちらのくじを引こうかな?(2年) ・変化の割合の計算(3年) ・グラフの交点の座標(3年)	○高校数学までを見据えて、数学のつながりを考慮し、高校で学ぶ内容の一部に自然な形で触れられるよう工夫している。 【例】 ・三角形の外心、内心(1年) ・誕生日が同じ日である人がいる確率(2年) ・皆既日食と金環日食(3年) ・円に関するいろいろな性質(3年)	○学習指導要領上、その学年で扱うこととされていない発展的な学習内容には「発展」マークをつけて区別し、見てわかるよう工夫している。 【例】 ・三角形の内心と外心(1年) ・期待値(2年) ・ $y=ax^2$ と $y=ax$ のグラフの交点を求める(3年) ・円の接線の問題(3年)
(5) 他の教科等との関連	○「学びをいかそう」や「数学ライブラリー」などで他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・緊急地震速報〔理科、防災〕 ・数学用語の英語表現〔英語〕 ・回転焼きができるまで〔社会〕 ・AEDの重要性がわかるグラフ〔保健体育〕 ・ストリングアート〔美術〕	○「学んだことを活用しよう」や「数学旅行」などで他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・ランドルト環〔保健体育〕 ・LED電球はお得〔理科〕 ・ビッグデータ〔技術・家庭科〕 ・円柱形の鍋〔技術・家庭科〕 ・選挙速報〔社会〕	○「数学のたんけん」、「数学を仕事に生かす」や「暮らしと数学」などで他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・円周率の歴史〔歴史・伝統と文化〕 ・図をかくと見えてくる音の広がり〔技術、建築士〕 ・スロープの勾配〔福祉、生活〕 ・数学を使って表現される人工衛星の世界〔理科〕 ・データを分析してわかること〔情報〕	

<p>3 使用上の便宜が工夫されていること。</p>	<p>(1) 表記・表現の工夫</p>	<p>○ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がある。 ○QR コンテンツでは、ヒントや途中式、解説、補充問題と解答、解説動画、グラフ・図形を動かせるシミュレーション、プログラミング思考などがある。 ○教科書冒頭に「教科書の構成と使い方」を記述し、指導者・保護者も含め丁寧な説明がある。 ○学年に応じて巻末に思考力・表現力を高める「数学広場」がある。</p>	<p>○ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がある。 ○QR コンテンツでは、ヒントや解説、補充問題、イメージ動画や、グラフ・図形を動かせるシミュレーション、考察や探究などがある。 ○教科書冒頭に「この教科書について」を記述し、指導者・保護者も含め丁寧な説明がある。 ○学年に応じて巻末に思考力・表現力を高める「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」がある。</p>	<p>○ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がある。 ○QR コンテンツでは、ヒントと解説、実験の動画、グラフ・図形を動かせるシミュレーションなどがある。 ○教科書冒頭に「この本の使い方」を記述し、指導者・保護者も含め丁寧な説明がある。 ○学年に応じて巻末に思考力・表現力を高める「数学研究室」がある。</p>	
----------------------------	---------------------	--	---	---	--

教科用図書調査研究報告書 (道徳を除く)

教科・種目名	理科	種類	5 種
--------	----	----	-----

(2) 枚中 (1) 枚

採択基準	基本観点	東京書籍 (2・東書)	大日本図書 (4・大日本)	学校図書 (11・学図)	教育出版 (17・教出)	啓林館 (61・啓林館)
		理科 002-72・82・92	理科 4-702・802・902	理科 011-72・82・92	理科 017-72・82・92	理科 061-72・82・92
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	ビジュアルシンキングを豊富に取り入れ、学習意欲が持てるように工夫している。 「探究の流れが分かる」、「育成する資質・能力が見える」、「理科の見方・考え方が見える」を可視化し、探究的な学習に取り組めるよう配慮している。 多様な二次元コードコンテンツが用意されている。 ポートフォリオ「Before&After シート」により、学習前後の考えの変容を取られることができるよう工夫している。	巻末の特集ページで非常に多くの博物館や科学学習センターなどとの関連について取り扱っている。 オーソドックスで、明確な構成、分かりやすい文章や図で、学習をスムーズに進める工夫がなされている。 ICT の活用について、二次元コードからコンテンツに接続できるように工夫がなされている。 理科と職業を関連付けた事例を多く取り扱っている。	二次元コードが全ページに記載されており、教科書紙面に対応するウェブページと接続できるよう工夫されている。 写真を大きく効果的に使い、生徒にとってわかりやすい工夫がされている。 巻末の「補充資料」が充実しており、発展的な学習ができるように工夫されている。 科学的な探究を行うために前提となる知識が確実に身に付き、理解が深まるよう配慮している。	「まなびリンク」から全コンテンツに接続できる工夫がされている。 「これまでの学習」では、既習内容を振り返ることができるように他学年との関連が各章で紹介されている。 巻末の「学年末総合問題」では、1年間の学習の復習ができるように考慮されている。 教科書だけで何をどのように学習すべきか、またその答えは何か簡潔に読み取れるよう工夫している。	1人1台端末を有効に活用して多様な学びが実現できるように二次元コードコンテンツが豊富で学びを広げる工夫がされている。 図や重要ポイントを強調することで、観察すべき点が明確になり、生徒が必要な情報を効果的に把握できるよう配慮している。 多様なコンテンツを利用することで、生徒の興味・関心を引き出し、主体的に学習に取り組む姿勢を促すよう工夫している。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	課題に対する答えを自分でまとめる構成をとり、巻末の例で確かめられるよう工夫している。 つまづきやすい問題を、分かりやすい例題により確認することで知識の定着を図っている。 理解度をチェックする欄(ここがポイント)や問題が適切に配置されている。 章末や単元末では基礎基本の確認から活用の問題まで掲載しており、習熟度に応じて学習できるよう工夫している。	探究の過程に沿った学習を意図的に進められるように具体例を示すなど工夫されている。 特に重視する項目には、目立つようなデザインが採用されている。 例題や章末問題で個別のペースに合わせた学習ができるように図られている。 結果を考察しやすい実験観察が取り上げられている。	「この時間の課題」「まとめ」が1時間ごとに示されている。単元末に「学習のまとめ」が設けられ、基本事項が確認できるように工夫されている。 観察実験では、事故防止の注意事項を黄色の枠内に赤字で表記することで、目立つように工夫されている。 二次元コード先のインターネット教材として、動画や基礎問題などを取り上げている。	5段階のステップで学力の定着を図り、繰り返し学習とその振り返りを通して、知識技能を身に付けさせる工夫がされている。 各節に「課題」「結論」が示されている。観察実験の近く及び巻末資料に「基礎技能」が掲載されている。特に重要な基礎技能については、各学年に掲載されている。 章末には、要点と重要語句の整理が見開きであり、復習しやすいように工夫している。	各章にある「Review ふり返ろう」では、用語の説明や自身の考えをまとめる問が設けられており、自分の理解を言葉で表現できるよう工夫されている。また、その答えが確認できる頁を示して知識の定着を図っている。 「実験のスキル」のすべてに二次元コードコンテンツがあり、動画を通して、操作方法が確認できるように工夫されている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	「仮説」「構想」「分析・解釈」「検討・改善」の言語活動により、科学的な思考力・表現力が身に付くよう工夫している。 「理科の見方・考え方」の活動により、より深い学びにつながるよう工夫している。 各単元に「じっくり探究」の節があり、探究的な学習の流れに沿って科学的な資質・能力の育成を図っている。 理科の見方、考え方を明確に提示することで思考力、判断力の育成を図っている。	インタビュー記事を通して、自分の将来のキャリアについて考えられるよう図られている。 具体例やもの見方・考え方を単元ごとに示すことにより思考を働かせる工夫を凝らし、観察・実験の目的を明確に示すことで生徒が主体的に取り組めるように工夫している。 SDGs など、一人ひとりが考え、皆が話し合うことのできる資料が取り上げられている。	『理路整然』で探究の組み立て方が示されている。 『結果から考察する』では、具体的な表現例が示され、思考力や表現力を深めるための工夫がされている。 探究課題が黄色の帯で明確に示されているため、何を解決したらよいか、わかりやすいように工夫されている。 巻頭には 探究の進め方を説明し、各探究のはじめに、生徒が解決したくなるような導入場面を取り上げている。	折り込みの「探究の進め方」で、探究の流れや方法がフローチャートによって示され、わかりやすいように工夫されている。 「活用しよう」「考えよう」「話し合おう」では、自分の言葉でまとめさせたり、発言させたりすることで、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。 具体的な事例で自然現象を通じて理科の知識を深め、実生活との関連を理解することができるよう配慮している。	巻末の「探Qシート」で探究の進め方や方法が示されている。探究の過程で自分の考えを自由に書き込むことを通して、探究の流れをつかむように工夫されている。 「Action」では、学習で得た知識を活用して考える機会を設け、科学的な思考力を高められるように工夫されている。 実験結果が理論値と合わない場合の課題を提供することで、科学的な思考力・判断力・表現力の育成を図っている。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	興味・関心を高めて主体的に取り組めるよう、各単元冒頭に「問題発見」を漫画のようなスタイルで取り掛かりやすいように工夫しており、「まちなか科学」により日常生活とのつながりを取り上げている。 巻頭の「考察はここをおさえよう」「議論のしかた」などで言語能力の育成につながるよう配慮している。 「考えをまとめよう」や「説明しよう」の欄を設け、言語活動につながるよう工夫している。	学習した内容を確実に定着させ、より深く理解するために役立つウェブコンテンツを多数取り上げている。 対話的な学習の場面を設け、オリジナルキャラクターの吹き出しを用いた対話の具体例を記載している。	「Can-do List」で、できるようになりたい目標を示し、主体的に学習に取り組めるようにするための工夫がされている。 「学びのあしあと」では、課題に対する自分の考えの変容を自覚できるように工夫されている。 探究の仮説設定や計画立案の場面には生徒の話し合いを提示するなど工夫している。	「やってみよう」「チャレンジ」では、主体的に学習が進められるような工夫がされている。 「話し合おう」では対話的な活動をする場面が設定されている。 「活用しよう」では、科学的な疑問や日常の疑問について考える場を設定している。 巻末の「自由研究」では個々の興味関心に応じて、主体的に学習が進められるように工夫されている。	「探Q実験」では、対話例を通して、探究の足場となるヒントを示すことで、自ら考える助けになるよう工夫されている。また、仮説欄に自分の考えをあらかじめ書いてから話し合うことで主体的対話的な学びが実現できるよう工夫されている。 「な・る・ほ・ど」として実生活との関連を示し、生徒の興味関心を喚起するようなテーマを取り上げている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	単元末コラムや「お仕事図鑑」などの読み物により日本人研究者・技術者の話題や日本の伝統や文化などを取り上げている。 発展的な内容に「発展」のマークをつけ、高等学校の学習内容にリンクするよう工夫している。	日本文化の特徴や、理科の知識や技能がくらしに生かされていることを気付くように配慮している。 日本の文化や伝統、歴史、ものづくりなどを紹介する資料を取り上げている。 専門家の監修を受けた、自然災害から身を守る方法や安全に関する記述を掲載するなど、SDGs や自然災害等に関する内容を取り扱っている。	各学年で「SDGs を意識して脱炭素社会へ」「自然の恵みと災害」の項目を設け、理科と SDGs との関連がわかりやすいように配慮されている。 各章に SDGs の実現に向けた取組としてアイコンが掲載され、生徒自らが持続可能な社会を意識できるように工夫されている。	「ハローサイエンス」のコラムでは SDGs のアイコンの記載があり、学習内容と日常生活をつなげたり、環境への意識を高められたりできるように工夫されている。 「私のレポート」では、具体的な事例を通じて学びを深める工夫をしている。 「科学者列伝」では関係のある学者を紹介することで、興味関心を高める工夫をしている。	各学年のSDGsに関連するコーナーに「SDGs マーク」をつけて、社会とのつながりや科学技術の有用性を実感できるように工夫されている。 「深めるラボ」「防災減災ラボ」「お料理ラボ」「お仕事ラボ」を通じて、最新科学技術や実生活との関連、異なる文化や歴史的背景に基づく科学の発展や環境問題について考える機会を提供している。
	(5) 他の教科等との関連	社会科や数学、技術・家庭科、保健体育、道徳など、他教科で学習する内容と関連の深いものを「(教科名)で学ぶこと」で分かりやすく示している。 理科に関連する書籍の紹介により、理科にとどまらない知識の追究が可能ないように配慮している。 「社会につながる科学」や、「お仕事図鑑」など、キャリア教育ともつなげようとして工夫している。	芸術、数学の領域と横断的に関連した学びをつなげる・広げる資料を取り上げている。 海外の話題を扱った資料を取り上げている。 読み物資料「Science Press」などでも他教科に関連する内容を掲載している。 「つながる」とし、他教科の内容を確認できるようにしている。	「理路整然」では、学びの内容に対する着眼点や探究の組み立て方が掲載され、教科横断的な視点を踏まえた内容も示されている。 「補充資料」において、日常生活や社会との関わりが紹介され、理科の有用性を実感できるように工夫されている。 科学的な知識などを社会に役立てている場面が取り上げられている。	「広がる科学の世界」や読み物資料で、高等学校の学習内容を扱い、発展的な学習ができるように工夫されている。 「ハローサイエンス」で歴史や高校への発展、実生活、キャリア教育との関連を深めて理解しやすいように配慮している。 「ブリッジ国語」「ブリッジ算数」「ことば」などのアイコンを付けて教科間の連携を図りやすいように工夫している。	巻末に「理科でよく使う算数・数学」を設けたり、各教科で学習した内容について、「〇〇と関連」のマークが付けられたりしており、他教科と関連付けられるように配慮されている。 中学校で学習する技術や家庭科、数学だけでなく、算数など小学校の既習事項とも関連付けて示している。 どの教科でいつ既習したのか、つなげることができるように配慮されている。

教科用図書調査研究報告書 (道徳を除く)

教科・種目名	理科	種類	5 種
--------	----	----	-----

(2) 枚中 (2) 枚

採択基準	基本観点	東京書籍 (2 東書)	大日本図書 (4・大日本)	学校図書 (11・学図)	教育出版 (17・教出)	啓林館 (61・啓林館)
		理科 002-72・82・92	理科 4-702・802・902	理科 011-72・82・92	理科 017-72・82・92	理科 061-72・82・92
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	ユニバーサルデザイン書体により、読みやすいよう工夫している。 1年生の教科書では、2・3年生のものよりも側注幅が広く、見やすいように配慮している。 重要語句の太字に加え、補足説明を側注欄に適切に配置している。 漢字へのルビが多くあり、外国にルーツをもつ生徒にも学習に取り組みやすいよう配慮している。	見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントが採用され、支援を要する生徒のみならず、全ての生徒にとって見やすいように工夫されている。 二次元コードからたくさんのデジタルコンテンツに接続できるように工夫されており、学習の様々なステップにおいて、理解の支援となるように工夫されている。	各章のとびら(見開き2ページ)のダイナミックな写真にインパクトがあり、生徒の興味関心を高める工夫がされている。 本文はユニバーサルデザインフォントで統一され、重要語句は太ゴシック体が使用され、識字をサポートするためにふりがなが振られる配慮がされている。 紙面のウェブページ化により個に応じた学びを図っている。	単元配列は、各単元の学習内容のつながりを考慮し、地域や学校の実態に応じた計画が立てやすいように配慮されている。 教科書のサイズよりも拡大した頁(普段は折り曲げて収納)を取り入れることで、「探究の進め方」が、どこの頁からも確認できることができるよう配慮している。 文字のサイズが大きく、重要語句は太字ルビ付きオレンジ色で見やすいよう配慮している。	キャラクターに外国ルーツの生徒(ミゲルさん)やズボンを着用した女子生徒(結希さん)を登場させ、多様性を考慮したインクルーシブ教育に配慮がされている。 重要語句を太字にし、漢字にはルビを打つなど配慮されている。 全体的に見やすく、原色ではなくパステルカラーを活用しているため、生徒が集中しやすく、学習に取り組みやすいよう配慮している。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	音楽(一般・器楽)	種類	2 種
--------	-----------	----	-----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	教育出版 (17・教出)		教育芸術社 (27・教芸)	
		一般 017-72・83・84	器楽 017-72	一般 027-72・83・84	器楽 027-72
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 同一の題材で、関連あるいは対比的な教材が複数配置されており、授業者が進めやすく、基本と発展的な授業展開、関連教材による補完など、柔軟に授業づくりを行いやすい。 歌唱教材の学習目標が明確に示されており、めあてをもって学習を進めることができる。 国民性が強調された鑑賞曲群と多文化が融合した総合芸術の鑑賞曲群が学習しやすく配置されている。 日本の伝統音楽教材の配列が時代順になっており、感覚的に伝統や発展について掴むことができる構成になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習をさらに深めるための楽器や名曲に関する丁寧な解説文や、自ら主体的に学べるコードや音楽記号の一覧表など、学習指導要領の趣旨に沿った構成になっている。 楽器の構え方や演奏方法などが、イラストや写真などを駆使して直感的に参考にできる工夫がなされている。 多様な合奏曲が掲載されているとともに、和楽器の固有の記譜法と通常の五線譜の併用により、思考と活動の可能性を広げられるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通教材以外の歌唱曲、鑑賞曲が、発達の段階や小中間の繋がりを意識して構成されているため、過年度の学習との関連性や、他教科・領域との横断的な取組を円滑に行うことができる。 それぞれの教材のページに、題材や学習のめあて、音楽を形づくっている要素などを、イラストやマークを活用しわかりやすく配置し、見通しをもちやすく構成されている。 「学びの地図」として、1年間で学習する内容や身に付けたい3つの資質・能力との関連などを明示し、各教材を繋がりをもって取り組みやすく工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの楽器に取り組むにあたっての、表現の工夫や知識・技能を深めることができるコーナーが充実しており、演奏に必要な基本的な情報や留意点を効果的に入手できる構成になっている。 タブレットの活用や家庭学習を視野に入れた教材が多く、伴奏データなどを二次元コードで入手し、一人で多彩な学習や練習を進めることができる。 「学びのコンパス」として、音楽的な見方・考え方を働かせて学習を進めていくためのポイントがそれぞれのページに明記してある。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 学習を進める上で必要な知識や情報、ポイント部分については、解説を省略することなく丁寧に掲載するとともに、イラストを効果的に配置し視覚的に特徴を捉えることができる工夫がなされている。 発声の仕方についての解説や指揮法などは、具体的なイラストにより、理解しやすい構成になっている。 日本の各地の民謡が、五線譜や民謡譜などの楽譜で掲載されており、旋律の特徴について理解しやすく、創作との関連も意識して構成されている。 西洋音楽史の学習を、欧米だけでなく日本史と比較しながら学習しやすくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多種にわたる楽器の一覧や、様々な吹き方や弾き方、叩き方の種類などの提示により、様々な楽器の特性や多くの演奏方法について知り、自ら試そうという意欲を高める工夫がなされている。 「～のまとめの曲」として、学習したことを振り返り、確認できる楽曲が配置され、演奏方法などの学習の定着を確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に取り組むうえで必要な知識に関しては、欄外に解説文を入れたりポイントを明示したりするなどして、即座に必要な情報を取り込めるとともに、二次元コードとタブレットを活用して、必要な参考音源を聴くことができるようになっており、各自で個別最適な学習を進めやすい。 楽典の一覧表はコンパクトで明瞭である。 音楽史年表は系統的に配列され、時代の流れを視覚的に捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 和楽器の学習において、積極的に「唱歌(ソカ)」を取り入れることにより、当該楽器の技能習得だけでなく教育楽器での演奏など各種アンサンブルへの発展性が高くなっている。 各種のギターなど、様々な同種の楽器を紹介、解説することにより、個々の興味関心に応じた発展的活動が期待される。 楽器の紹介に和楽器や世界の民族楽器を並列して紹介し、音楽や楽器の多様性や特徴を掴む工夫が施されている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 曲や音楽を構成する諸要素について、自分で考えたり調べたりできる小コーナーが掲載され、二次元コードによりワークシートをダウンロードし、成果物として発表・提出できるようにもなっている。 滝廉太郎の作品が2作品連続で掲載されていたり、当時の主たる作曲家を一覧で紹介したりするなど、時代や作曲家に関連付けた指導がしやすくなっている。 主たる鑑賞曲のみを掲載するのではなく、すべての楽章の関連モチーフを示し、楽曲全体とおした統一感や作曲者の意図を把握できるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 同族楽器について丁寧に紹介されており、楽器同士の比較がしやすい。演奏法の共通点や違い、音色の違いについても学びやすい工夫がされている。 鑑賞や創作の領域で取り組んだ内容と連動した器楽曲が用意されており、各分野・領域を関連付けながら学習を進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学びのコンパス」という形で、活動の区切りでポイントを明示し、ワークシート形式の問いかけに答えるように振り返りを行い、課題や工夫点を整理しながら次のステップに向かいやすいような仕組みになっている。 ひとつの鑑賞教材に加えて、複数の副次的な関連楽曲を紹介し、学びの深さや個々の興味関心に応じて自ら学習を広げることができる工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の特徴や歴史を知り、様々な文化の多様性を感じる工夫や、写真やイラストを加えてじっくりとそれぞれの楽器演奏の楽しさや美しさを、ページや提供音源から感じる工夫が施されている。 音楽(一般)との関連・共通曲が多く、領域間を横断的・発展的に捉えた指導がしやすい。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> 目次に加えて「学習MAP」として、全体像や題材と教材配列、「音楽を形づくっている要素」を一覧で明示し、見通しをもった学習を進めることができる。 曲や音楽を構成する諸要素に関するポイントについて、友だちと話し合ったり、意見をまとめてグループで作業したりするなど、協働的な学びにつながる小コーナーが設けられている。 様々な日本音楽に「唱歌(ソカ)」が掲載されており、和楽器の音色やリズムについて学びやすく、教育楽器での器楽合奏やリズムアンサンブルなど、鑑賞のみにとどまらない工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各題材のワークシートのページでは、「～について考えてみよう。」さらには「気が付いたことを友だちに紹介しよう。」という欄が設けられており、自己の思考、他者との気づき合い、再び自らの深い思考、というサイクルが自然にできるよう工夫されている。 「音のスケッチ」コーナーでは、楽器を使った創作だけでなく、創作アンサンブルにまで踏み込んだ活動が設けられており、教材の発展性、関連性に変化優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な著名作曲家の作品が数多く収録され、合唱曲の質が高く発達段階に応じた難易度の設定にも配慮がなされている。系統性や横断的学習の観点でも特化している。 ワークシート形式を多く導入した「学びのコンパス」という区切りを設定することにより、各自で取り組んだ成果や考えを他者との話し合い活動で共有し、仲間との気づきによってさらに良いものにしていこうという主体的かつ協働的な学びの良い機会になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーやその他の楽器を用いたアンサンブル譜が充実しており、本格的な合奏にも挑戦できる教材が用意されている。ソプラノリコーダーとアルトリコーダーを使った合奏曲や打楽器アンサンブル、ボディーパーカッションなど、生徒の主体的な活動の目的に応じた楽曲選択が可能である。 記譜に工夫がなされ、西洋音楽で用いられる楽器と和楽器のコラボレーションも可能になっている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> SDGs との関連がある題材や教材には、SDGs の17のマークがわかりやすく表示されている。 掲載曲が平易な同声曲から混声四部合唱へと自然な流れで配列されている。 京都府の人権啓発ソングが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ストリートピアノの紹介など、現代の日常生活にある音楽について触れている。 リコーダーのトリル奏法についてや、チューニングの概要と方法について解説してある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「君が代」について触れる際、現代においてどのような機会に歌われ親しまれているかを多くの例示で触れている。 SDGs についてコーナーで特集し、国際理解や道徳的心情、環境問題や楽器の扱いを例に掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> バンドや和楽器の新たな可能性など、現代の音楽の在り方について紹介することにより、生徒の興味関心が一層高まるような工夫がなされている。
(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ音楽やアウトリーチ型の演奏活動を紹介し、現代の音楽の発展や広がりについて学ぶことができる。また、「音の三要素」など、理科をはじめ他教科での学びと関連付けた資料が掲載されている。 音楽著作権について、日常生活や学校生活における身近な具体例を紹介し、法律と生活について考えさせられる構成になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「楽器の仲間たち」として、各国の管楽器や弦楽器をまとめて紹介してあり、系統的に特徴を掴みやすいとともに、歴史や風土と楽器の発展や伝承とのかわり、材質や加工法など、他の様々な教科や学びとの関連性を図った学習を進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会の中の音や音楽について触れるだけでなく、どのような場面で社会と結びつき繋がっているかを考えながら、思考と視野を広げる工夫がされている。 気候と音楽、著作権に関する学習など、他教科と関連付けた指導内容や教材が多く配置されており、横断的に学びを進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽そのものや楽器の発展や伝播に関して、西洋・東洋の歴史、シルクロードの整備や航路の発見などとの関連・変容など、歴史、文化、民俗、宗教、風土とのかわりについて気付けるよう工夫されている。 	
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 音楽記号等の楽典一覧や、変声期に関する解説欄は、記号や楽譜の他に、系統ごとにカラーで色分けされており、感覚的に理解しやすい工夫がなされている。 手触りが良く、蛍光灯の光が反射しにくい。 見やすさ、読みやすさを配慮したUDフォントを使用。 導入部分に、生徒の興味関心を高める演奏家の写真や名言を掲載している。 有名作曲家の一覧表に肖像画が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 手触りが良く、蛍光灯の光が反射しにくい。 リコーダーの運指表、キーボードやギターのポジション表は、見開きで練習中参考にしやすく、カラーでの分類表示により、より分かりやすい表になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 目次等の色分けやイラストによるポイントの明示、また、見開きページによる俯瞰的提示など、感覚的に理解を進めることができ、わかりやすい。 二次元コードで提供されているコンテンツは多種にわたり、個別最適な学び、協働的な学びを進めるうえで、教科書を活用しやすくなる内容になっている。 軽量化を目指した紙質、再生紙や再生可能なインクを使用し、生徒にも環境にも優しい装丁になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 目次が登場楽器ごとに分類され、カテゴリや奏法によるまとめや学習の見通しをもてる構成になっている。 全種の教科書の表紙を並べると絵巻のように繋がったイラストになっており、音楽の分野・領域の繋がりを示し、巻頭のメッセージや写真でも、音楽と人々とのつながりと広がりを紹介し、意欲を惹き立てている。 黒文字が照明で反射しにくい特殊なインクを使用。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	美術	種類	3種
--------	----	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	開隆堂出版(9・開隆堂)	光村図書出版(38・光村)	日本文教出版(116・日文)	発行者名(番号・略称)
		美術009-72・82	美術038-72・82	美術116-72・83・84	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・美術科の特質である対象を捉える視点や考え方を学ぶことを目的として、よさや美しさなどを感じ取る感性や想像力を働かせて、自分としての意味や価値をつくり出すことができるように導く学習のポイントが示してある。 ・鑑賞の題材では全体のイメージや作風で捉えることができるように工夫して示している。	・つくった作品を飾ったり使ったりする活動や、地域・生活と関わりが強い作品などを掲載し、実生活で美術が果たしている役割が具体的に示してある。 ・「生活や社会の中の美術や美術文化」のよさや美しさに気づき、豊かに関わる資質・能力を育成できるように、レイアウトや造本が工夫してあり、特設ページを設けたりしている。	・<造形的な視点>で[共通事項]や考えさせたいことを提示している。 ・導入時に使用する動画が2分ほどの短時間で構成され、QRコードで読み込むことができるよう準備されていて、指導する上で工夫されている。 ・中学3年間の発達の段階をきめ細かく分析し、各学年の資質・能力を3分冊として構成されている。	
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	・各題材の「学習の目標」に「知識や技能に関する目標」が明示してある。 ・題材の中で、その活動が「知識・技能」に関する学習であることを明らかにするマークが示してある。 ・各巻末の「学びの資料」に題材横断的な知識や技能が系統的に整理して示され、効率よく多様な題材の学習に対応できるように構成している。	・全ての題材に知識及び技能に関する目標を示し、美術科における知識の実感を伴う理解及びその活用、創造的に表す技能の習得につながるよう配慮している。 ・全ての題材で発達段階に応じて知識が深まるように題材が配列されている。また、中学校美術で学ぶ知識や技能の内容を、別冊1年資料にまとめ、生徒が必要に応じて参照できるように工夫している。	・「表現のヒント」が示されていて、技能を習得するための知識が分かりやすい。 ・各題材に「学びの目標」が示されており、「知識及び技能」の目標が生徒に分かりやすい言葉で表現されている。 ・技能の基礎を支え、生徒が自分の思いを基に活動を充実させることができるように、材料や用具の取り扱いについて「学びを支える資料」として巻末にまとめ、写真やイラスト、導入コンテンツがQRコードで丁寧に説明されている。	
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・各題材の「学習の目標」に「発想や構想に関する目標」を提示するとともに、各題材のどの学習活動が「思考力・判断力・表現力等」と関連するか記号を用いて表示している。 ・必要に応じて「思考・判断・表現」の学習を深めるための「発想・構想」の方法や「鑑賞」の学習の進め方のヒントやポイントを、親しみやすくキャラクターの吹き出し等を用いてわかりやすく示している。	・生徒の発想や構想の手がかりとなるよう、多くの生徒作品を掲載するとともに、「みんなの工夫」では生徒の制作における試行錯誤の過程を詳しく紹介している。 ・「鑑賞」と「表現」をアイコンでわかりやすく示し、発想・構想段階では、生徒が主体的に「鑑賞」と「表現」を往復することができるように工夫している。	・「作者の言葉」や「表現のヒント」は、発想・構想の手立てやヒントとし、生徒がより自分の発想・構想を広げ深められるよう配慮されている。 ・表現題材においては、発想・構想と鑑賞の双方で働く「中心となる考え」を明確にし、鑑賞したことが発想し構想を練る時に生かされ、発想し構想したことが鑑賞において生かされるよう工夫されている。	
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・生徒が主体的に先生や生徒などと検討したり議論したりして、主体的に自分の考えを広げたり深めたりすることができるような文章や紙面構成がしてある。 ・各題材の最初に提示する本文において、「造形的な見方・考え方」を働かせ、深い学びに繋がるものとして、その学習の意味がわかりやすく提示してある。 ・原寸大の鑑賞資料や親しみを感じられる作品を数多く掲載し、身近なものや美術文化のつながりを示している。	・各題材の最初に鑑賞図版を掲載し、生徒が主体的に作品を鑑賞し、かつ対話が生まれるような問いが示してある。 ・中学生の制作過程を詳しく示すことで、「自分ならどう作品をつくりたいか」と生徒が主体的に考え、作品を発想できるよう、工夫している。 ・各題材の学びの流れを明確にし、生徒が主体的に学習に取り組めるようにしている。	・QRコードの動画による導入時の興味付けや、個人が主体的に学ぶコンテンツが充実している。 ・「造形的な視点」や「学びの目標」など主体的に取り組むことができるよう工夫されていたり、「鑑賞の入り口」では、造形的な見方・考え方に気付かせ、「もっと知りたい」検索マークから更に調べられるよう配慮されている。 ・「2・3年下」では、美術で身に付けた力を人生において生かすなど、主体的に学ぶことができるようにしている。	
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	・小学校図画工作科の学習と中学校美術科での学習の関連と発展性についてわかりやすく提示するページを設定している。 ・中学校美術科の学習と高等学校芸術科美術及び工芸の学習との関連に配慮するとともに、中学校美術科の学習の目的や意義を確認する中で、主体的に学習に取り組めるように示している。	・絵や彫刻、デザインや工芸の他、カメラやICT機器を使うなどさまざまな技法の作品を幅広く取り上げ、生徒が多様な表現方法の中から自分の主題に合うものを選択できるように配慮している。 ・地域や時代、性別に偏りが出ないように配慮している。また、生徒の主体的・対話的な学びが生まれるような作品を選定している。	・SDGSに関連する題材にはマークが入っている。 ・持続可能な社会の作り手として、現代的な諸問題について、美術とのかかわりを通じて考えを深められるよう題材事例が取り上げられている。 ・情報機器の活用例が示されるなど、プログラミング的思考に関連する内容が示されている。	
	(5) 他の教科等との関連	・他教科や特別活動(文化祭や体育祭)との関連を図った題材が設定されている。 ・2・3年の題材「生活を楽しく心地よく」は、技術・家庭科「家族・家庭生活」や道徳「集団や社会との関わり」と関連している。 ・キャリア教育の視点から、デザイナーや美術に関わりのある職業で活躍する人物のコラム等を取り上げている。	・他教科と関連する題材には、「〇〇科とのつながり」というミニコラムを設け、他教科での学びを意識しながら、表現や鑑賞の活動が行えるように配慮している。 ・他教科での学びを意識しながら、表現や鑑賞の活動を行うことができるように工夫してある。 ・他教科との関連が分かりやすく表記されている。 ・キャリア教育の視点から、作家やデザイナーなどの美術に関わりのある職業で活躍する人物のコラム等を取り上げている。	・「道徳との関連マーク」と内容が記載されていて、題材との関連を示している。 ・題材ページ、学びを支える資料において、他教科での学習を生かしたり、関連付けた題材や事例を掲載したり、教科横断的な学習ができるように配慮されている。 ・キャリア教育の視点から、専門家だけでなく、シンガーソングライターなどのコラムや題材が取り上げられている。	
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	・表紙は思わず触りたくなるような特殊加工を施すことで、教科書を手にとった生徒たちが美術の学習により興味・関心をもつことができる魅力的なものになっている。 ・立体的に浮き出た加工部分を指先で触りながら作品の質感を想像することができるように工夫してある。 ・裏表紙も表紙と関連のあるデザインが施してあり、こだわりが感じられる。 ・QRコードから「アイデアシート」「鑑賞シート」「振り返りシート(全題材)」をダウンロードして使うことができる。	・鑑賞図版を大きくダイナミックに掲載し、生徒の興味・関心を引き出す工夫がされている。 ・観音開きや両観音開きのページを設け、視覚的に生き生きとした紙面構成で、生徒の興味・関心や学習意欲を高められるよう工夫してある。 ・掲載されているQRコードも、内容と関連のあるデザインがされている。	・特別支援教育への配慮として、ユニバーサルデザインフォントを使用するなど、工夫されている。 ・ICTマークが示されている。 ・掲載されている作品を生かすため、白地を基調として余計な装飾は極力抑えたデザインで内容が伝わりやすく工夫されている。 ・表紙と裏表紙を開くと、大判図版になっていて見やすく工夫されている。	

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	保健体育	種類	4 種
--------	------	----	-----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	大日本図書(4・大日本)	大修館書店(50・大修館)	学研教育みらい(224・学研)
		保体002-72	保体702	保体050-72	保体224-72
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	「見つける」「学習課題」「課題の解決(発問、本文・資料、活用する)」「広げる」のステップが学習の流れに沿って配置されており、主体的・対話的で深い学びを通して、幅広い知識と教養を身につけ、健康の保持増進や豊かなスポーツライフを実現する資質・能力が育成されるように配慮している。	章ごとに主体的・対話的で深い学びを実現できる活動「学びを活かそう」が設定されている。章のイメージや学習内容、小学校、中学校、高等学校の系統性がイメージできる章扉を設けるなどの工夫をしている。導入の活動「つかもう」では、生徒に身近な題材を取り上げることで、主体的に学習に取り組む態度を育むよう工夫している。	動画コンテンツ、web保体情報館、webワークシート、保体クイズにトライ!の4種類のデジタル教材が準備されている。幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことができるよう、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現」「学びに向かう力、人間性」をバランスよく育成できるよう配慮されている。	各章のとびらに小・中・高で学習することを見通せる工夫がされている。また、章ごとに「探究しよう!」が配置されていて、発展的な学習ができるよう工夫されている。口絵で、健康、環境、安全・防災、運動・スポーツに関連する職業を「JOB」として取り上げるなどして、キャリア教育について考えられるよう工夫されている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	各章末の「学習のまとめ」には、課題解決、知識、キーワードの解説、章末問題、ワークシートのQRコンテンツを設け、知識の学習状況の確認、整理し、定着させるよう工夫している。巻末のスキルブックには、保健分野の技能をはじめ、命や健康を守るために必要な20のスキルが、豊富なイラストや写真とともにわかりやすく示されている。	キーワードで学習内容の振り返りをし、学習内容をまとめる本文と、本文を裏付け、知識を深める資料を取り上げている。学習ポイントとなる重要な言葉を章の最後にまとめて示し、学習内容の整理に役立つよう工夫している。また、ウェブに「まとめの問題」を用意し、確実な知識の定着を図っている。	基礎的・基本的な知識及び技能が確実に習得できるよう、科学的な根拠に基づいて正確に記述されている。また、豊富な資料が用意されている。その時間に学ぶべき内容の明確化がなされ、重要語句はキーワードとして示されている。学習の要点や重要な概念は見出しに掲げられているので要点をつかみやすいよう配慮されている。	巻頭に「さまざまな学習方法」を設け、学習内容や課題学習等の整理の仕方が掲載され、学習が深められるよう工夫されている。巻末には「章のまとめ」を設け、基礎的・基本的な知識が習得できるよう工夫されている。技能の習得には「技能」マークを付し、イラストや写真のほか、二次元コードから参照できる動画を活用して、学習しやすいよう配慮されている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	細かいステップで発問を設け、常に思考力・判断力・表現力を働かせながら学習を進めるように工夫している。また、思考・判断・表現したことを書くためのスペースが設けてある。効果的に働かせることができるように、シミュレーションや思考ツールのQRコンテンツが用意してある。	「学びを活かそう」を活用し、保健体育の「見方・考え方」をはたらかせて思考を深める工夫をしている。また、生徒の記入欄を広く設け、表現力を高めることを目的としたり、問いや例示の意図を汲んで活動に取り組みながら、読解力を高めたりできるよう配慮している。課題解決学習を通して、思考力・判断力・表現力等が育成されるよう配慮している。	思考力・判断力・表現力を育成するため、学んだ知識をもとにして考えたり、判断したりする課題が随所に配置されている。また、学習した知識や自身の考えを発表する活動を設定しやすいよう配慮されている。各項目の冒頭に生徒の関心や学習意欲を引き出し、気づきや思考を促す導入発問が記載されている。	話し合う、表現するなどの言語活動が設けてある。「もっと広げる・深める」では、身に付けた知識を基に、興味や関心に応じて深く学ぶことができるように工夫されている。各項目、「エクササイズ」「学びを生かす」では、学習した知識や情報を基に思考力・判断力・表現力等の育成を図るよう配慮している。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	各章の「見つける」では、日常経験などから自他の課題発見につなげる発問が設定され、学習課題を自分のものとし、主体的に課題解決に取り組むことができる配慮をしている。各章の「活用する」では、他者に説明したり他者と話し合ったりする活動が設けられている。	各章単元には導入の活動、本文や資料を活用して取り組むなどの活動、学びをより深める活動を設定している。すべての章で、自らの課題を発見し、主体的に取り組む中で、資料から読み取る、友達と話し合うなど、対話を通して思考を広げて深めていく活動等を通じて、深い学びが実現できるよう配慮している。	学習の流れや系統性が示され、見直しをもって学習に取り組むやすいよう配慮されている。学習をどのように進めていけばよいかを示された解説ページや、様々な学び方を紹介したページが設けられている。学びを広げたり、深めたりできる情報が「特集資料」として掲載されており、web保体情報館では、調べ学習に役立つサイトが紹介されている。	「協働」のマークを示し、主体的・対話的かつ協働的な学習活動がすすめられるよう工夫されている。研究課題(「探究しよう!」)で、課題の例や学習の仕方が示され、課題解決的な学習につなげられるよう配慮している。ICT機器の効果的な活用を促進し、デジタルコンテンツを活用できるように「章デジ」を設けるなど工夫されている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	今日的課題の内容が充実している。口絵には、「私たちの未来とSDGs」として、感染症やスポーツなど保健体育の視点からSDGsについて考察する構成である。大切な命を守るために、「心の健康」を重視、体力向上のためになど毎日の生活に深く関わる内容が充実している。	章末資料で学習内容に関連する様々なトピックスを幅広く取り上げる工夫をしている。QOL(クオリティ・オブ・ライフ)を高めるため、主体づくりと環境づくり等に関連付けて考えられるよう工夫している。	他教科マークで他教科の学習内容との関連が示され、教科相互の関連を図ることで発展的な指導が展開できる。ICTと健康についても取り上げられ、ICTの適切な活用を考えさせることで情報リテラシーの育成に資するよう工夫されている。	発育・発達の学習に関連し、LGBTQ+やSOGIなど、多様性について取り上げたり、共生社会の実現やウェルビーイングの実現に向けて考えたりする内容を取り扱っている。過去の災害から学び、日頃の備えとともに、正確な情報を得ることが重要であるなど記載されている。
	(5) 他の教科等との関連	随所に「他教科マーク」を設け、他教科の学習内容との関連を簡潔に示し、教科相互関連を図り、系統的、発展的な指導を行うことができる。各章扉では、小学校、中学校、高等学校それぞれで学習する内容を明示し、系統性との指導ができるように配慮している。また、道徳との関連も示している。	生命尊重、家庭愛、伝統と文化の尊重、国際理解など、道徳教育との関連に配慮している。無料デジタルコンテンツを豊富に用意し、対応するページにマークを示すなど配慮をしている。理科、技術・家庭、社会科など、他教科と関連が深い所では、関連が分かるよう「リンク」マークをつける配慮をしている。	持続可能な社会に関するコラムで環境について振り返らせ、主体的に社会の形成に参画し、よりよい未来を創ろうとする意識づくりにつながるよう配慮されている。ICTと健康について取り上げており、ICTの適切な活用を考えさせることで情報リテラシーの育成に資するよう工夫されている。	健康な生活と病気の予防では、健康と食事について言及し、食事の重要性が理解できるように食育と関連させている。自分自身に関すること、人との関わりに関することなど、道徳の内容について学習全体を通して関連を図っている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	特別支援教育の研究者に、専門的見地から内容及びデザインについて意見を聞き、できるだけ多くの生徒にとって読みやすい使いやすく配慮されており、特別支援教育に有効な機能が充実した「学習者用デジタル教科書」発行も予定されている。教育漢字以外の常用漢字には、すべてふりがなが振られる工夫がある。書体は、ユニバーサルデザインフォントを使用している。	実習の内容では、折り込みを採用し、教科書を広げて全体を確認しながら進めることができるよう工夫している。カラーユニバーサルデザインや重要な部分を強調するなどレイアウトを工夫したりして、読みやすさに配慮している。特別支援教育での使用にも配している。書体は、ユニバーサルデザインフォントを使用している。	写真やイラストの登場人物は、男女の役割を固定したり、国籍や障害の有無などに基づく差別や偏見につながりやすいことのないように注意を払って編集されている。特別な支援を必要とする生徒の学習しづらさや不安を招かないよう検閲され、可読性の高い紙面レイアウトになっている。書体は、ユニバーサルデザインフォントを使用している。	配色、表現、レイアウトについて、誰もが見やすく、わかりやすいよう配慮している。教科書バリアフリー法の趣旨に基づいて、拡大教科書を発行している。学習者用デジタル教科書の発行も予定されている。製本は特殊加工を施しており、3年間の使用に耐えられる。書体は、ユニバーサルデザインフォントを使用している。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	技術・家庭(技術分野)	種類	3 種
--------	-------------	----	-----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	教育図書(6・教図)	開隆堂出版(9・開隆堂)	発行者名(番号・略称)
		技術 002-72	技術 006-73・74	技術 009-72	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	ガイダンスの内容に関する資料のページでは、問題解決のプロセスが整理されている。 「見方・考え方」については、ガイダンスにおいて「技術のめがね」「最適化の窓」で社会における技術を見ることで気付きが得られるようになっており、各編の導入では、身の回りの製品を取り上げ、既存の技術の工夫を読み取ることができるように工夫されている。学習内容が、身の回りの問題解決から社会の問題解決まで幅広く収載されている。統合的な問題解決については、具体例が掲載されている。	ガイダンスの内容に関する資料のページでは、小学校との学習の連携を図りながら、社会はさまざまな技術によって支えられていることが示されている。 「見方・考え方」については、ガイダンスで触れた上で、各編の2章において、「問題発見」→「課題設定」→「課題解決」に取り組む一連の流れから、技術の「見方・考え方」を形成できるようにしている。	ガイダンスの内容に関する資料のページでは、身の回りの製品を挙げながら、技術分野の学習の流れと問題解決について示されている。 「見方・考え方」については、ガイダンスで取り上げ、各内容でそれを深めるようになっている。各内容とも「導入」→「基礎学習」→「展開」→「まとめ・評価」の順で掲載されている。統合的な問題解決については、具体例が掲載されている。	
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	基礎的な知識を確認したい場合は「技術のとびら」、基礎的な技能を確認したい場合は「TECH Lab」で、基礎技能の習得をさせる。また、生徒がつまづきやすい内容や安全に実習を行うポイントがまとめられている。 安全については巻頭に「作業を安全に楽しく進めよう」が示されており、各章での安全や衛生のポイントは「安全」マーク、「衛生」マークを付けて、生徒の注意を喚起している。	「見つける」で学習意欲を喚起、「学ぶ」で自主的に学習、「ふり返る」で学習理解の確認ができる。基礎的な内容は、とてもシンプルな図や写真で示し、技能資料は別冊の「スキルアシスト」にまとまっていて、QRコードから作業の仕方を動画で学習できるようにしてある。 安全については、ガイダンスでまとめており、安全や衛生のポイントは「安全」マーク、「衛生」マークで注意を喚起している。	各内容とも分かりやすい写真や図、イラスト、セリフがあり、基礎的・基本的な知識や技能を学ぶことができる。各小項目の最後に設けられた「CHECK」によって振り返りを行うことができる。 安全については、ガイダンスでまとめており、安全のポイントは「安全」マークで注意を喚起している。学習コンテンツが豊富である。	
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	「考えを深めよう」や「生活に活かそう」などの問題解決例のページは、問題解決のプロセスに沿った紙面構成となっており、自らの問題解決に主体的に取り組むことができるようになっている。また、思考ツールの例が提示してあったり、ワークシートが思考しやすいように工夫されていたりしている。 各編の最終章には、持続可能な社会の構築に向けて、生徒自身が考えられるようなワークシートが掲載されている。	問題解決のページでは、生徒に親しみのある漫画で説明されている。「やってみよう」や「プチ課題解決」など課題解決例のページで、手順を丁寧に示している。また、各3章の最初に技術のプラス面やマイナス面を比較し、さまざまな問題を解決させるように示している。 各編の最終章にある「社会の発展と技術」では、技術のプラス面とマイナス面について生徒自らが考え判断できる内容となっている。	各編で問題解決の流れが丁寧に説明されていて、自分自身の課題解決につなげやすい。問題解決例のページにおいても、先に説明された流れがそのまま示されている。 各編の「学習のまとめ」に「社会の発展」を考えるようなワークシートが掲載されている。	
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	「考えてみよう」「やってみよう」「調べてみよう」の項目で、身の回りで使われている技術を見つけ、新たな問題の発見につながり、生徒が主体的に学習していくように配慮してある。また、「話し合ってみよう」の項目で対話的な学習にも取り組めるようになっている。 QRコードで読み取って、動画や資料、図鑑、思考ツールなどがあり、特に動画は字幕が表示できるようになっている。 各編末には「学習のまとめ」のページがあり、評価の三観点について、学習内容の定着を確認できるようになっている。	漫画で説明をして、生徒の興味や理解度の向上を図っている。生徒の思考を段階的に進められるようにしてある。 「やってみよう」で学習した内容を使って、自主的に学習できるようにしてある。 QRコードで読み取って、学習課題や動画、資料、ワークシートなど多彩なコンテンツが準備されている。 各編末には「まとめ」のページがあり、評価の観点である「知識・技能」「思考・判断・表現」について、学習内容の定着を確認できるようになっている。	各ページにチェック項目が設定しており、振り返りが行いやすくなっている。問題解決の流れがイラストやセリフで分かりやすく表現しており、生徒が主体的に活動できるように工夫されている。 QRコードで読み取って、学習課題や動画、資料、ワークシートなど多彩なコンテンツが準備されている。 各編末には「学習のまとめ」のページがあり、学習内容のふり返り、定着を確認できるようになっている。	
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	技術で社会に貢献している人や「すごいぞ！技術」でこれからの技術の紹介、すべてのページで「技術の工夫」による詳しい内容、巻末には「学んだことを社会に生かす」を設け、技術分野の学習内容を広げて将来に生かしてほしいというメッセージが掲載されている。	適度に「もっと知ろう」という項目や各編の終末には「スゴ技」「技ビト」マークで発展的な内容の掲載があり、巻末の「先輩からのメッセージ」では高等学校の専門分野についても触れられている。	章末に技術に関わる人のインタビューを掲載し、職業についてイメージをすることや、「豆知識」や「発展」マークをつけて、生徒の意欲や興味・関心に応えられるようにしている。	
	(5) 他の教科等との関連	「リンクマーク」で、学年や教科、学習内容の関連を示している。 特別の教科 道徳については「まとめと発表の仕方ポイント」、「生物育成の技術と環境との関わり」、「情報セキュリティと情報モラル」の内容で記載している。	ページの下に「関連」マークを付して他教科との関連を示していて、小学校で学んだ内容が技術でどのように生かされているか写真やセリフで示している。 特別の教科 道徳については「情報セキュリティと情報モラル」の内容で記載している。	各内容のとびらページや「リンクマーク」で小学校や他教科とのつながりを示している。 特別の教科 道徳については「コンピュータやスマートフォンなどを使うときに注意すること」、「情報機器を使った、生活や社会とのかかわり方」、「生物育成がもたらす多面的な機能」の内容で記載している。	
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	学習の流れを全ページ統一することで見やすいレイアウトになっている。また、すべての書体に、ユニバーサルデザインフォントを使用し、幅広い色覚特性に適応できるような配色とデザインになっており、小学校で学習していない全ての漢字にふりがながついている。 様々な種類の二次元コードコンテンツが 412 箇所用意されており、個別最適な学びや協働的な学びに活用できるようになっている。	文字が大きく、重要語句を青色の太字にし、紙面の構成が統一されたレイアウトになっており、見やすいように工夫されている。書体はユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーバリエーションの観点から配色が考えられている。見開ごとに必要な漢字にはふりがなを振っている。 様々な種類の二次元コードコンテンツが 121 箇所用意されており、個別最適な学びに活用できるようになっている。別冊「スキルアシスト」が付属している。	単語が途中で改行されないようにレイアウトしており、単語を認識しやすくしている。全面的にユニバーサルデザインフォントを使用し、本文や図、参考で使い分けて、色覚に特徴のある生徒にも配慮したカラーユニバーサルデザインを使用している。弱視の特性があっても見やすいように文章を大きめのゴシック体にしたり、余計な色を省略したりしている。 様々な種類の二次元コードコンテンツが 400 箇所以上用意されており、個別最適な学びに活用できるようになっている。	

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	技術・家庭(家庭分野)	種類	3 種
--------	-------------	----	-----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	教育図書(6・教図)	開隆堂出版(9・開隆堂)	発行者名(番号・略称)
		家庭 002-72	家庭 006-72	家庭 009-72	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	Worm upを含めたガイダンスに係る内容が18ページ掲載されており、家庭分野で学ぶことや身に付けたい力を示しながら、3年間の学習の見直しをもつことができるようになってる。 生活の営みに係る見方・考え方を働かせることに関する内容は、各編の導入において、関連する見方・考え方をキーワードで例示している。また、キャラクターのセリフを通して見方・考え方を働かせるようになっている。 3つの内容がABCAの順で配列している。	ガイダンスに係る内容が14ページ掲載されており、家庭分野で学ぶことや学び方を示しながら、3年間の学習の見直しをもつことができるようになってる。 生活の営みに係る見方・考え方を働かせることに関する内容は、各学習の導入「見つめる」において、日常生活の場面から見方・考え方の視点を通して気づきを得られるようになっており、「見つめてみよう」では、気づきに関連した問が示されている。 3つの内容がABCの順で配列している。	ガイダンスに係る内容が14ページ掲載されており、家庭分野で学び方や身に付けたい力を示しながら、3年間の学習の見直しをもつことができるようになってる。 生活の営みに係る見方・考え方を働かせることに関する内容は、各学習の導入での問又は「やってみよう」に示すことで、学習過程の中で見方・考え方を働かせるようになっている。 3つの内容をABCの順で配列している。	
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	重要語句を強調しており、「キーワード」が各章ごとに記載されている。 クッキングメモや調理実習の手順の中のポイントで材料の特徴や調理中の要点を示している。 内容ごとに学習の目標を示し、各節末の「まとめよう」「生活に生かそう」で学習を振り返ることができる。	重要語句を青の太字で示しており、「キーワード」が各章ごとに記載されている。 「QA」や調理実習の手順の中のポイントで調理中の要点を示している。 内容ごとに学習のめあてを示し、「ふり返る」でめあての内容が身に付いたかを確認することができる。	重要語句を太字で強調している。 「調理 QA」で調理の中で疑問と答えがわかるように示している。 内容ごとに学習の目標を示し、各学習のまとめごとに「学習のまとめ」で目標内容が身についたかを確認できる。	
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	「生活の課題と実践」を3つの学習内容の最後に設け、実践例を示すことで課題設定をやすくしている。レポート、プレゼンテーション、新聞、ポスターなど、まとめや発表の仕方を示している。 「生活に生かそう」では、実習の記録を振り返り、興味を持ったことや改善していきたいことをまとめ、自分の生活の課題と実践に結び付けられようになっている。	「生活の課題と実践」を3つの学習内容の最後に設け、課題例を示すことで課題設定をやすくしている。課題設定から改善・次の課題までの進め方を示している。 「学びをいかそう」の記録レポートでは、自分の生活の課題の改善の流れに沿ってまとめて発表できるようになっている。	「生活の課題と実践」を3つの学習内容の最後に設け、課題例を示すことで課題設定をやすくしている。日常の興味や疑問などから課題を設定することや進め方・まとめ方を示している。 観察や実習の際の計画を立てる場面やレポート作成、観察・発表等の場面が設定されている。	
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	「考えてみよう」「やってみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」などの活動や、思考ツールを取り入れている。 節末に「生活に生かそう」「まとめよう」、各編末に「学習のまとめ」を設け、学習の振り返りができるようになっている。	「見つめてみよう」「話しあってみよう」「調べてみよう」「やってみよう」「考えてみよう」等、実践的な活動を取り入れている。 節末に「振り返る」、各章末に「学を活かそう」「学の振り返り」を設け、学習の振り返りができるようになっている。	「考えてみよう」「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」等、生活とつながる課題を取り入れている。 章末に「学習のまとめ」を設け、学習の振り返りができるようになっている。	
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	発展的な内容には「発展」マークを付けて、明示している。	発展的な内容には「発展」マークを付けて、明示している。	発展的な内容には「発展」マークを付けて、明示している。	
	(5) 他の教科等との関連	他教科や道徳と関連する学習内容には、「他教科リンク」マーク、小学校の学習内容には、「小学校リンク」マークを付けている。 職業観・勤労観を育成するため「プロに聞く」が掲載されており、キャリア教育につながる工夫がある。 編の最後に持続可能な社会を目指す学習で統一されている。	他教科、特別活動、総合的な学習の時間、道徳、小学校の学習内容と関連する学習内容には、「関連」マークを付けている。 地域で活躍している様々な職業の方からのメッセージが掲載されており、キャリア教育につながる工夫がある。 学習項目に家庭科の学びとSDGsを関連付けた「SDGs」マークを付けている。	他教科・他分野(技術)との関連する学習内容には、「他教科・他分野との関連」マーク、小学校の学習内容には、「小学校との関連」マークを付けている。 「先輩からのエール」として職業を通してメッセージ等が掲載されており、キャリア教育につながる工夫がある。 編の最後に持続可能な社会を目指す学習で統一されている。	
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	ユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインにも配慮しており、内容ごとに異なる色で示している。 各節「目標」から「まとめの活動」の流れで統一されており、それぞれが見開き同じ位置に配置されている。 実習の手順は、左から右に読み進める流れで統一されている。	ユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインにも配慮しており、内容ごとに異なる色で示している。 各節「目標」から「まとめの活動」の流れで統一されている。 実習の手順は、上から下に読み進める流れで統一されている。	ユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインにも配慮しており、内容ごとに異なる色で示している。 各節「目標」から「まとめの活動」の流れで統一されている。 実習の手順は、左から右に読み進める流れで統一されている。	

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	外国語(英語)	種類	6種
--------	---------	----	----

(2)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	開隆堂出版(9・開隆堂)	三省堂(15・三省堂)
		英語 002-72・82・92	英語 009-72・82・92	英語 015-72・82・92
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<p>【単元数】1年:Unit0+10単元、2年:Unit0+7単元、3年:Unit0+6単元</p> <p>【構成】本編はUnit・Stage Activityの2部構成、各UnitのPreview、Partでは主に「聞く」「話す」「書く」活動、Read & Thinkでは主に「読む」活動。Stage Activityは3つずつの単元をまとめ、統合的に活動することをねらいとしている。</p> <p>【小中接続】1年前半で小学校での既習内容を振り返るように構成。また、小学校既習英単語を用いて「音と文字」の関係を学ぶ Sounds and Letters というコーナーが新設。</p>	<p>【単元数】1年:10単元、2年:8単元、3年:7単元</p> <p>【構成】本編は Program、Our Project の2部構成。各 Program は基本的に Scenes、Part、Action で構成。単元最初の Scenes で文法項目・表現がイラスト(マンガ)を用いてまとめて提示されており、予備知識を入れてから学ぶ形式。Our Project は3つずつの単元をまとめ、統合的に活動することをねらいとしている。</p> <p>【小中接続】1年で本編に入る前に10ページ分の振り返り(Get Ready1~6)がある。</p>	<p>【単元数】1年:9単元、2年:8単元、3年:8単元</p> <p>【構成】本編は Lesson と Project の2部構成。各 Lesson は Part(知識・技能の習得)、Goal Activity(統合的な活動)で統一。単元間に Take Action!があり、「聞く」「話す」「読む」活動を設定。Project は3つずつの単元をまとめ、統合的に活動することをねらいとしている。</p> <p>【小中接続】1年最初にゲーム要素やペelmanシップの要素を取り入れたアクティビティを入れた Starter1~6がある。</p>
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・3回のラウンドリーディングで視点を変えて読解のポイントを絞り、繰り返し読ませる工夫がある。 ・文型のまとめページ Grammar for Communication は視覚的に理解しやすくする工夫がされている。 ・Real Life English では「聞く」「話す(やりとり)」「書く」に焦点を当て、コミュニケーション力を伸ばす工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Program の始め(Scenes)でマンガを利用した新出表現の導入があり、使う場面をイメージしやすい(目的・場面・状況を視覚的に理解できる工夫)。 ・マンガ⇒聞き取り⇒発表もしくは会話という流れが一貫して使われている。 ・1単元に対して1つの読み物(登場人物たちのアナザーストーリー)が用意されており、リーディング活動を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Goal Activity に向けて音声→文字→コミュニケーションと段階的に学び、経験し、考え、表現する構成。 ・教科書の本文や活動と類似した素材や、リスニングやリーディングの補充活動も豊富に用意されている。 ・現在完了が2年生で出てきて、3年生の最初にも出てきて、繰り返されている。 ・文型のまとめページ「Language Focus」は、マンガ的に読みやすい。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・Part1と Part2 では、短い文章で、概要・要点・必要な情報を捉える学習ができるように、読み物材料を工夫されている。 ・各 Part には本分内容に即した Activity があり、単元末活動につながる設定がある。 ・紙面に「目的・場面・状況」が明確に提示されており、それらを意識したコミュニケーション活動を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Review & Retell で本文内容ふり返り→自分の言葉で再話をさせ、相手意識・目的意識を持たせる工夫がある。 ・Action では題材に関連したテーマで行う自己表現活動を設定。 ・発表の準備をするためのステップでは、ページが大きく使われており、わかりやすく構成されている。 ・知識・技能の学習⇒読解⇒自己表現というステップで無理なく思考・判断・表現の力も伸ばす工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた条件に合った情報を読み取るなど、「読むこと」に対する思考・判断・表現力の育成のねらいを持って構成されている。 ・Take Action!は、技能をばらばらで扱っているが、その領域が非常に分かりやすく、扱いやすい。特有の表現を扱うスキット系も充実している。 ・Goal Activity の設定が、Lesson を貫くテーマとの関連もあり言語活動としてだけでなく内容的にも興味を喚起できる。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・概要把握の「問い」や Before you Read のリスニングによって、目的意識を持って本文を読めるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出表現の学習や発表などのステップだけでなく、本文の内容や人物のセリフを別の言葉や表現で言い換えるリテリングを通して協働的な学習に生かしやすい。 ・各プログラムに一つ、内容の続編のような読み物資料があり、さらに学びたい生徒には良いと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生から段階的に、身近な話題について話し合い、「意見を言う」「相手の意見に賛成・反対する」練習ができるようになっている。 ・リスニングのコツや上手な教科書の使い方など「学び方」を学ぶことで自律的な学習者を育てる工夫がなされている。
(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・QR コンテンツ: Preview アニメ、語句(+クイズ)、本文、キーセンテンス(+クイズ)、解説動画 *Word Room、NEW HORIZON 用例辞典、Digital ・学習者用デジタル教科書: QR コンテンツの利用、スピード・再生方法の変更・日本語訳・マスク表示、書き込み保存・参考資料リンクの貼り付け ※特別支援機能: 日本語本文ルビ付き、分かち書き表示、明るさや配色、書体の変更、Google 翻訳利用しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・QR コンテンツ: 単語アプリ⇒4つの出題パターンで問題、単語、本文、動画、導入動画、解説、Tuning in 動画、AIによるスピーキング評価機能 ・学習者用デジタル教科書: QR コンテンツの利用、ふせん/リンク機能(画面上にメモを書き込み、貼り付け) ※特別支援機能: 文字や背景色の変更、本文読み上げ機能、リフロー画面読み上げ、ルビ表示 	<ul style="list-style-type: none"> ①QR コンテンツ: とびら(写真、イラスト、動画、Scene のアニメ、資料動画)・Part(本文アニメ、本文や単語音声、解説動画)・英和辞典、基本本文の練習(Listen、Repeat、Say、my Box)、単語の練習・練習問題(リスニング、英→日、日→英) ※発音チェック AI が3段階でチェック。オリジナル英文も OK、発音図鑑 ②学習者用デジタル教科書: QR コンテンツの利用、フリーハンドペン(直線やスタンプ、ふせん、紙面拡大)、明るさやコントラスト・文字色変更、総ルビ表示対応 ※家庭学習モード: 音読、単語練習、「レベル選択」→個人のレベルにあった練習、「学習履歴」残すことが可能
		<ul style="list-style-type: none"> ・2・3年生で発展的な読み物教材を掲載している(Further Reading)。 ・Further Reading では高校の学習内容が取り入れられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3年生で発展的な読み物教材を掲載している(2年3つ、3年3つ)。 ・3年: Further Reading さらに長い分量の英文(物語～社会問題)、豊富な語彙、多読・速読用読み物 ・Coffee Break: 通常課での学習深堀(英語表現・異文化情報) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で発展的な教材を掲載している(1年4つ、2年6つ、3年5つ)。 ・「つなぎことばを使う」というコーナーでは、会話を広げたり、深めたりするときに役立つ表現を確認できるようにしている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<p>1年生時は、年間通じて手書きに近いUD書体が使われている。2年生からは一般的な活字書体が大半を占める。</p>	<p>1年生時は、手書きに近いUD書体とブロック体で使用されている。2年生からは一般的な活字書体とブロック体が併用されている。</p>	<p>1年生時は、年間通じて手書きに近いUD書体が使われている。2年生からは一般的な活字書体が大半を占める。</p>

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	外国語(英語)	種類	6種
--------	---------	----	----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	教育出版(17・教出)	光村図書(38・光村)	啓林館(61・啓林館)	
		英語 017-72・82・92	英語 038-72・82・92	英語 061-72・82・92	
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<p>【単元数】1年:9単元、2年:9単元、3年:7単元</p> <p>【構成】本編は Lesson と Project の2部構成。各 Lesson は扉、Part、Task、Grammar で構成。Task で単元の学習内容を統合的に活動、Grammar で文法のまとめを行う。Project は3つずつの単元をまとめ、統合的に活動することをねらいとしている。</p> <p>【小中接続】1年 Springboard1～6でまとまりのあるやさしい英語を聞く活動から始まり、アルファベットを丁寧に指導する構成。</p>	<p>【単元数】1年:8単元、2年:8単元、3年:8単元</p> <p>【構成】本編は Unit と You Can Do It! の2部構成、3年間で学校生活を舞台とした1つの物語となっている。各 Unit は扉(単元テーマの確認)・Part(進出表現の学習)・Goal(本文読解・自己表現など学習内容の統合)で構成されている。You Can Do It! は3つの単元をまとめ統合的に活動することをねらいとしている。</p> <p>【小中接続】1年最初に「聞く」から始め「書く」「話す」へと進捗を確かめる Let's Be Friend!がある。</p>	<p>【単元数】1年:10単元、2年:8単元、3年:6単元</p> <p>【構成】本編は Unit と Project の2部構成。各 Unit は(単元テーマの確認)・Part(進出表現の学習)・Read/Listen & Think(2年はなし)・Think & Speak/Write に分かれている。各 Unit に学習内容を表現する活動が用意されている。Project は2～3も単元をまとめ、統合的に活動することをねらいとしている。</p> <p>【小中接続】1年最初に Let's Start で小学校の復習をする。また1年前半は「聞く」「話す」を中心に会話文が主となっている。</p>	
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> Part1～3 で学んだ本文の内容や文法事項は、Lesson 末で復習して定着を図る工夫がされている。 各 Part に本文学習に加えて、Let's Listen があり、さまざまな場面や状況の英語を聞く機会が多い。 各 Part、Key Sentences の後に、Tool Kit があり、新文型のパターン練習ができる。 単元末の Grammar で文法の解説と整理ができる工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実写ドラマがあり、同年代の演者が教科書の英文+αを表情を交えて演じており場面と英語を理解しやすい。 Active Grammar で文構造や文法など、言葉の使用場面・意味や形を整理している。 文法重視ではなく表現重視の配列となっている。また、ユニットによってどの領域・技能を中心に力を付けるのか明確である。 巻末の「英語のしくみ」は視覚的に理解しやすい工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> Focus on Form で文法・文構造を系統的、詳細な説明を加えて整理している。 音声での理解を促す活動を充実させており、段階的に理解できるよう工夫されている。 	
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> Project では既習の知識や表現を生かし、4技能5領域の知識・技能を統合的に活用しつつ、思考力・判断力・表現力を働かせながら課題解決に取り組む活動が用意されている。 各パートに、Think & Try または Read & Try があり、自分事に引き寄せて発信(書く・伝える・やりとり)できる。 Lesson の最後に Task でパフォーマンステスト的な課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の喜怒哀楽がよくわかる場面設定がなされており、訳を理解するだけでなく、人物の心情についても考えを深められる題材になっている。 Story Retelling: Unit 毎のイラストとキーワードがあり、単元の学習内容を振り返りながら自分の考えを伝えたり、書いたりする活動を設定。 Small Talk の話題設定としている About You や帯教材の Let's Talk! で即興的に自分の意見を伝え合う活動を設定。 	<ul style="list-style-type: none"> Listen/Read&Think/Speak が多く用意され、聞いたことについて考え、自分の意見を伝える、という活動が充実している。 Express Yourself で新出文法などを用いて自己表現する活動を設定。 Let's ～で目的・場面・状況に応じて活動を行い、実生活に即したコミュニケーション能力を育成する活動を設定。 	
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> 読んでみたいと思うような気持ちを引き出す読み物教材が多い。 「即興的なやりとり」の力を伸ばす練習をさせるページが用意されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士が1対1だけでなく、グループで話している場面も多い。また、人物の感情も表現したロールプレイができる。また、人物の心情について話し合う場面も作れる。 Extra Story: 各 Unit に教科書ストーリーの番外編、補充用リーディング教材 	<ul style="list-style-type: none"> 各パートの本文が会話であることが多いので、それを生かしたペアやグループでの活動を行いやすい。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ①QR コンテンツ:まなびリンク(Words & Phrases 学習シート、本文音声のみ(単語音声なし)) ②学習者用デジタル教科書:本文、語句音声再生、(本文カラオケ表示、再生速度変更、録音再生→自分の声を録音)、新出語句フラッシュカード、音声認識によるkey sentences 練習 ③学習者用デジタル教科書+教材(有償):音声再生、速度調整、導入、文法関連動画 	<ul style="list-style-type: none"> ①QR コンテンツ:実写ドラマ・スライドアニメ、ピクチャーカード並べかえ、Listen & Read・Listen(6段階の速度調整機能)、World Tour(世界の文化や社会的課題)、技能統合型活動“You can Do it!”:「テストにトライ!」活動の内容に関連したスピーキングテスト収録(フィードバックはない) ②学習者用デジタル教科書:QR コンテンツの利用、字幕表示機能、速度調節機能、自分の発音を確認:録音・再生機能を搭載 ③学習者用デジタル教科書+教材:フラッシュカード(復習機能、オリジナルカードセット作成) 	<ul style="list-style-type: none"> ①QR コンテンツ:本文音声、本文アニメーション、Words 音声(意味マスク機能)、解説動画(“the 解説”(Horizon 楽しい))、Listen 音声 ②学習者用デジタル教科書(無償給与版):QR コンテンツの利用、音声速度変更機能 ※特別支援機能(リフロー、読み上げ、ルビ)
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で発展的な教材を掲載している(1年3つ、2年4つ、3年6つ)。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で発展的な教材を掲載している(1年1つ、2年2つ、3年3つ)。 Let's Read More!:各学年の巻末1～3本の付録の読み物教材→さらに多様な文化や価値観に触れる 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で発展的な教材を掲載している(1年2つ、2年3つ、3年3つ)。 3年 Let's Read3:発展的な表現(高校で学習する表現)を含む。 発展的な内容に「発展」と分かる記載がある。 	
	(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> 他教科等と関連のある題材が豊富に用意されている。SDGsに関連した題材も多い。 【各教科との関連】世界や自国の風俗習慣、地理・歴史、伝統文化、自然科学をはじめ、福祉・共生、環境エネルギー問題、勤労体験などを題材としている。 【学校行事・学校生活との関連】職場体験などと関連付けた内容を設定。 【特別の教科道徳との関連】各内容項目との関連を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 教科等と関連のある題材が豊富に用意されている。SDGsに関連した題材も多い。 【各教科との関連】世界や自国の風俗習慣、地理・歴史、伝統文化、自然科学をはじめ、異文化理解、環境エネルギー問題、勤労体験などを題材としている。 【学校行事・学校生活との関連】球技大会、防災訓練、合唱コンクール、修学旅行などと関連付けた内容を設定。 【特別の教科道徳との関連】各内容項目との関連を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 教科等と関連のある題材が豊富に用意されている。SDGsに関連した題材も多い。 【各教科との関連】世界や自国の風俗習慣、地理・歴史、伝統文化、自然科学をはじめ、異文化理解、環境エネルギー問題、差別問題などを題材としている。 【学校行事・学校生活との関連】運動会、職場体験、防災訓練、合唱コンクール、修学旅行などと関連付けた内容を設定。 【特別の教科道徳との関連】各内容項目との関連を設定 	
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<p>1年生時は、年間通じて手書きに近いUD書体が使われている。2年生からは一般的な活字書体が大半を占める。</p>	<p>1年生時は、手書きに近いUD書体とブロック体が使用されている。2年生からは一般的な活字書体が大半を占める。</p>	<p>1年生時は、年間通じて手書きに近いUD書体が使われている。2年生からは一般的な活字書体が大半を占める。</p>	

教科用図書調査研究報告書(道徳)

教科・種目名	道徳	種類	7種
--------	----	----	----

(2)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	教育出版(17・教出)	光村図書(38・光村)	日本文教出版(116・日文)
		道徳002-72・82・92	道徳017-72・82・92	道徳038-72・82・92	道徳116-73・74・83・84・93・94
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	35教材と付録の4教材を配置し、内容項目がすべて揃っている。 補充、深化、統合の役割を果たせるよう構成されている。また、本編教材、コラム(「Plus」)、付録教材の3つで構成されており、さまざまな教材で道徳性を養えるような配慮がある。 「心情円」で、そのときの思いを可視化できるように工夫している。	30教材と5つの補助教材で内容項目がすべて揃っている。 全教材に「導入」と「学びの道しるべ」があり、学習前後の考えや心の変容を実感できる工夫がある。また、役割演技や日常体験を想起して話し合う教材があり、道徳的行為を体験的に学ぶことができるようになっている。 教科書の学びを深め、充実させる「まなびリンク」に二次元コードからアクセスできる。	34教材と2つの付録教材で内容項目がすべて揃っている。 各学年の最初の教材で「道徳科は何を学ぶ教科か」について紹介し、対話を重視し、多面的・多角的な見方で道徳的な価値について考えていく学習であることを明示することで、主体的に学べるよう工夫されている。 いくつかの教材が関わり合いながら1つのテーマについて学ぶための「ユニット」が構成されている。	本冊に35教材を配置し、内容項目がすべて揃っている。 複数の教材やコラムを組み合わせた「ユニット」が設けられ、「いじめと向き合う」「よりよい社会を考える」など、いじめ問題やキャリア教育など、目標を明確にして学習に取り組むことができるようになっている。 すべての教材、コラムに二次元コードを表示し、さまざまなコンテンツを閲覧して、生徒の興味、関心を高める工夫がある。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫	ねらいとする内容項目がぶれないよう、教材の冒頭には学習のテーマが設定されている。 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が育つ教材がバランスよく配置されている。 内容項目別の一覧表が巻頭と巻末にあり、どの教材でどの内容項目を学習するのかが明確になっている。	教材の冒頭に考える視点を明記している。 学習指導要領に示された4つの視点のどれに該当するかを、色と絵柄で区別したマークが各教材に付いている。 教材末の「学びの道しるべ」で、3つの問いを通して道徳的諸価値の理解を深められるように工夫している。	教材の冒頭にマークで内容項目を明記している。 道徳科として人権に対する知識や考え方を学ぶための教材ユニットが設けられている。 教材末に「考えよう」「見方を変えて」「つなげよう」といった発問と自己を振り返らせる発問が分けて示されている。	各教材の冒頭に「学びのキーワード」が明示され、その教材の道徳的価値について示されている。 全学年で「生命の尊さ」が重点内容項目として設定され、学びを深められる教材が各学年3つずつ配置されている。 教材の末尾には2つの発問例が示され、教材を通して考えたいことが共通理解できるようになっている。
	(2) 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるための工夫	新聞の投書欄を教材化したり、複数の人のさまざまな意見や考えをもとに多面的・多角的に考えられるよう構成されている。 教材の発問に「ぐっと深める」という設問があり、深い学びにつながるよう工夫している。	教材ごとに「学びの道しるべ」を設定し、考える視点を示し、考えを深めるよう工夫されている。 複数教材をユニットとすることで、学びを深める工夫がある。また、巻頭には交流して考えを深めていく学習過程や方法の例示があり、多面的・多角的に考える工夫がある。	教材ごとに「考えよう」「見方を変えて」が設けられ、自ら問いを持ち探究する姿勢や多面的・多角的に考える姿勢を育める工夫がされている。 多様な教材を用いて、登場人物への自我関与、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習ができるよう工夫されている。	「学びを深めよう」が設定され、考えを深めるための資料や思考ツールによってより多角的・多面的に深い学びが得られる工夫がある。 「いじめ」に関するテーマでは、複数の資料をユニット化し、いろいろな資料や友達の意見など多面的に考えられるようになっている。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	写真やイラストを見て、自ら問題を見だし、その問題について話し合う活動のできる教材がある。 各教材に「つぶやき」の記入枠があり、考えをメモでき、それを交流したり、自らの考えを深めることに活用できるように工夫されている。 二次元コードから朗読音声を聞くことができる。また朗読スピードを調整できるようになっている。	教材の冒頭の「導入」の問いで、生徒が見通しをもって主体的に学ぶことができるように工夫している。 生徒が共感的に読める教材や切実感をもって考えられる教材が、発達段階に合わせて適切に掲載されている。 記入欄やキャラクターによる発言例など、自分の考えをまとめ、それをもとに話し合う活動ができる教材がある。	第1教材で道徳について明示し、道徳的価値をイラストと言葉で示すことで、主体的に学べるよう工夫されている。 ロールプレイを行ったり、友達と話し合うことで、主体的・対話的に自ら問いを立てて学びを深める工夫がある。 巻末の「まなびの記録」によって生徒自身が成長を振り返ることのできる工夫がある。	問題解決的な学習に適した教材では「学びを深めよう」が設定され、主体的・対話的に学べる構成になっている。 教材やコラムをユニット化して体験的に学べる工夫やロールプレイによって主体的・共感的に学べる工夫がある。 二次元コードでワークシートやシンキングツールなどのコンテンツにアクセスできるように工夫されている。
	(4) 情報モラルと現代的な課題の取扱い	各学年に「道徳×情報モラル」をテーマにした教材が複数あり、考え、学ぶことができるようになっている。 情報モラルに関するコラムがあり、知識を学ぶことができる。 現代的な課題については、防災や安全、地域・伝統文化、国際理解、消費者教育、SDGs、ダイバーシティなどについて考えられる教材を幅広く取り扱っている。	生徒の発達段階に合った具体的な生活場面から情報モラルについて考えることができる教材がある。 「コラム(ひろば)」が設けられていて、情報機器を通したよりよい人間関係について話し合うことができる工夫がある。 現代的な課題については、いじめや命の大切さ、多様性の尊重など、人権について考えられる教材がある。	情報モラルや現代的な課題については、全学年、複数時間扱われている。 インターネット上でのコミュニケーションのあり方など、学年段階に応じて、より深く考えられる構成になっている。 現代的な課題については、いじめやジェンダーなどの人権に関する課題や、環境問題、安全・防災などについても「ユニット」として重点的に取り扱っている。	全学年で情報モラルに関わる教材やコラムを掲載し、各学年の発達段階に応じて学習できるようになっている。 インターネットやSNS、AIなどの長が取り上げられており、教科横断的な情報活用能力育成とも関連している。 現代的な課題については、いじめ問題を主体的に考えられるよう複数の教材をユニット化している。また、ウェルビーイングやSDGsなどについても取り扱っている。
	(5) 他の教科等との関連	巻末の教材一覧表には他教科との関連が示されている。また、教材冒頭に他教科との関連を示すマークがつけられており、他教科との関連を意識させる工夫がある。 「コラム」では、ソーシャルスキル、職業、食、健康など、さまざまなテーマを扱っており、特別活動や総合的な学習の時間との接続ができるようになっている。	他教科との関連についての明示はないが、別冊「内容項目別教材一覧表」で各教材と他教科や特別活動等との関連が示されている。 教材だけでなく、各学年に設けられている「コラム(ひろば)」では、人権やSDGs、防災など他教科等と連携して学びを充実させるような工夫がある。	巻末の一覧表に、教材ごとに他教科等との関連を明示されている。また、教材の中の「つなげよう」で、他教科や日常生活とつながる発問や話題提供がある。 内容項目が関わり合って、いじめ、キャリア、伝統文化、国際理解などのユニットが構成され、他の教科等の学習と関連付けながら学習できる。	「内容項目別教材一覧」のページで、他教科等との関連が一覧表として示されている。 他教科の実施時期を踏まえた教材配列になっている。(特別活動や総合的な学習の時間などとの関連)
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	書体や配色には、ユニバーサルデザインが使用されており、読みやすさ、見やすさについての配慮がある。 漢字は、原則小学校までに学習した漢字を使用することで、中学生が「読み」でつまづかないように配慮がある。 写真や図版は見やすい大きさと、見やすい位置に配置されている。	書体や配色には、ユニバーサルデザインが使用されており、読みやすさ、見やすさについての配慮がある。 全ての教材で初出箇所には振り仮名がつけられている。 教材内容の理解を助けるために、生徒のイメージを広げる挿絵や写真、図が適所に配置されている。	UDフォントの使用やカラーユニバーサルデザインの工夫など、誰にとっても視認性が高くなる工夫がされている。 中学校以上で学ぶ漢字にはルビがふられ、内容項目も色とマークで視覚的に理解しやすくなっている。 各教材で中心発問の部分には挿絵があり、視覚的にイメージしやすくなっている。	UDフォントの使用、文字の大きさ、罫線や囲みの使い方、カラーバリアフリーの視点から色遣いを工夫している。 中学校以上で学習する漢字や固有名詞等にはルビがふられている。また、読みやすいまとまりで改行している。 教材名の下に登場人物の写真などを配置し、人物をイメージしやすくなっている。

教科用図書調査研究報告書(道徳)

教科・種目名	道徳	種類	7種
--------	----	----	----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	学研教育みらい(224・学研)	あかつき教育図書(232・廣あかつき)	日本教科書(233・日科)
		道徳224-72・82・92	道徳232-73・83・93	道徳233-72・82・92
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<p>本冊に35教材を配置し、内容項目がすべて揃っている。</p> <p>「いのちの教育」を最重要テーマとし、生命の尊重の内容項目に全学年で各3教材を配当している。生命の尊さや人権を重んじ、多様性を受け入れながら、他者とよりよく生きる内容となっている。</p> <p>従来の読み物教材ではない、新感覚型の教材を充実させ、多様な視点から問題意識を喚起する工夫がされている。</p>	<p>本冊に35教材を配置し、内容項目がすべて揃っている。</p> <p>読み物とコラム等の補助資料や巻末付録を組み合わせ、学習を深めさせるよう工夫がされている。また、教材の良さを生かすシンプルな構成になっており、生徒が真剣に考え、対話が生まれる教材が設定されている。</p> <p>読み継がれてきた定番教材、現代や未来を生きる生徒のために現代的な課題を考えさせる教材を取り上げている。</p>	<p>本冊に34教材を配置し、内容項目がすべて揃っている。</p> <p>学習指導要領の内容項目順に教材を配置したり、行事に沿って配列しており、年間指導計画を作成しやすい構成になっている。</p> <p>「ウェルビーイングカード」により、どのような価値を大切にしているのかを考えたり、議論したりすることをサポートできる工夫がある。</p>
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫	<p>教材の冒頭に教材名と導入のためのキーフレーズを示している。</p> <p>内容項目が異なる教材を連続して学ぶユニット(SDGs、多様性、キャリア)教材や、道徳的行為に関する体験的な学習に合った教材が用意されている。</p> <p>各教材末に「考えよう」として、教材内容について深く考えさせる発問を2つずつ設定している。</p>	<p>教材の冒頭は一つの結論に導く授業にならないように内容項目は明記せず、生徒が考えられるように視点マークとタイトルのみ記載している。</p> <p>教材末に「自分を見つめて考える」「考えを深める」「自分の対話」など自己を振り返らせる発問を設定している。</p>	<p>学習指導要領に示された4つの視点および内容項目22項目をすべて取り上げ、教材が内容項目順に並べられている。</p> <p>各教材末の「考えよう」「深めよう」によって、自分の考えを深めたり、話し合ったりする視点を示している。</p>
	(2) 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>教材ごとに、「考えよう」として発問が2つ設定されている。</p> <p>「クローズアップ(コラム欄)」では、教材の内容項目の関連情報、多様な意見などを扱い、教材を軸に多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。</p>	<p>教材末に「いろいろな見方で考える」を設定して考える視点を示すなど、深めるための工夫がされている。</p> <p>「情報モラル」、「いじめ」など重点的なテーマは複数教材で多面的に考えられるようになっている。</p>	<p>各教材末に「考えよう」「深めよう」があり、2つの発問によって考えを深めたり、話し合ったりする視点を示している。</p> <p>同じ内容項目の教材を連続的に配置し、1つのテーマについて複数の教材から多面的に考えられるようになっている。</p>
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<p>生徒の関心が深いテーマや人物を扱った教材が多く、教材の構成や発問の工夫がなされている。</p> <p>主題名の扱いの配慮や、主題名の下にキーフレーズが記されているなど、生徒が教材に興味を持つような工夫がされている。</p> <p>各2次元コードから補助資料として、動画や写真、参考資料を見ることができる。</p>	<p>各教材の冒頭に内容項目を明示しないことで、生徒の主体的な問いや感動を生かした学びとなるように工夫されている。</p> <p>教材によって役割演技や話し合い活動を取り入れた「マイ・プラス」のページが設けられ、話すことや聞くことを通して学びが深められるようにしている。</p> <p>各2次元コードから動画や写真、参考資料にアクセスでき、さらに考えを深めることができるようにしている。</p>	<p>各学年の巻頭にガイダンスページを設け、前学年の振り返りと、1年間で目指す目標や課題について考える時間をもてる工夫がある。</p> <p>教材に応じて、写真や動画、漫画等を用い、教材がとらえやすいようにされている。</p> <p>巻末の「ウェルビーイングカード」に、大切にしたい価値を振り返ったり、友達同士で議論できる工夫がある。</p>
	(4) 情報モラルと現代的な課題の取扱い	<p>各学年に情報の扱い方や活用に係る配慮があり、道徳教育の視点から考えを深められるように配慮している。</p> <p>「クローズアップ(コラム欄)」で補助教材を掲載し、現代的な課題に対して考えを深めさせよう工夫されている。</p> <p>現代的な課題については、いじめ問題をはじめ、国際理解、環境教育等を幅広く取り扱っている。</p>	<p>情報モラルに係り、複数教材を組み合わせたユニットを学年配置し、連続した学習ができるように編集されている。</p> <p>情報モラル、いじめ防止など重点的なテーマは、複数教材で考えられるようになっている。</p> <p>現代的な課題について、インターネットやSNSの匿名や依存、デマ情報、情報拡散と責任等を取り扱っている。</p>	<p>情報モラルや現代的な課題について、内容項目との関連性を踏まえて取り扱われている。</p> <p>いじめ、ジェンダー、国際貢献・国際理解、環境資源、人権と幅広いジャンルを取り扱っている。</p> <p>現代的な課題について、「スマホ依存」「生成AI」「SNSでの誹謗中傷」等、リアル重視の内容となっている。</p>
	(5) 他の教科等との関連	<p>巻末に、教科等につながる教材が用意され、関連を考慮しながら年間指導計画が作成できるよう工夫している。</p> <p>科学技術の発展と生命倫理との関係や社会の持続可能な発展など、教科に関連した教材が取り上げられている。</p>	<p>巻末の「内容一覧」に、各教科や他の教育活動との関連を図って学習することができるよう示されている。</p> <p>科学技術の発展、持続可能な社会として環境や自然、安全・防災への理解など、教科に関連した教材が取り上げられている。</p>	<p>他教科との関連に関する明示はない。</p> <p>学校や家庭生活における日常場面、近隣や地域の人々との関わり等を取り入れ、今の生活を見つめたり、これからの生活を考えたりすることができるよう配慮している。</p>
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<p>字体のフォントが大きく、見やすい書体を使用している。</p> <p>レイアウトを工夫し、余白を適度に確保したゆとりある紙面構成になっており、見やすく、わかりやすくなっている。</p> <p>挿絵やマンガの大きさや彩りを工夫し、教材に入っているように構成されている。</p>	<p>字体はUDフォントを使用し、読みやすさに配慮している。</p> <p>文字やマーク(形やデザイン)で情報が読み取れるよう配慮されていて、学習に支障がないよう工夫されている。</p> <p>教材文と挿絵のバランスがとれており、シンプルに構成されている。</p>	<p>UDフォントを用い、読みやすさの向上を図っている。また、全ページの配色とデザインに配慮を施している。</p> <p>読みやすさの向上のために、紙面の広いAB判を採用している。</p> <p>教材に応じて、写真や挿絵等を用い、教材がとらえやすいようにされている。</p>